






# 共通教育履修案内

2026（令和8）年度 三重大学共通教育

三重大学 共通教育

<https://www.ars.mie-u.ac.jp>

履修申告の入力から履修確定まで

履修申告期間	<p>①履修申告計画を立てます。</p> <p> 必要な単位は？ 参照) → 第3部 V 学部・学科等の履修単位表</p> <p> 必要な単位でこの学期に履修しなければならない授業はどれ？ 参照) → 第3部 III 開講授業一覧</p> <p>指定クラス・開講学期・曜日時限をシラバスや共通教育授業科目時間割表で確認し、無理のない計画を立てましょう。</p>
	<p>②履修申告期間に <a href="#">Universal Passport (ユニパ)</a> を用いてWebから履修申告 (入力)</p> <p> 履修申告時に気を付けることは？ 参照) → 第2部 I 履修申告</p>
	<p>③重複履修を希望する場合は所定の手続き期間までに共通教育事務室へ連絡 参照) → 第2部 I 3. (2) 授業科目の重複履修</p>
授業1週目	<p>④第1回目授業に出席</p> <p> 1回目の授業はどこに行けばいいの？ Moodle コース<a href="#">共通教育学生掲示板</a>・<a href="#">ユニパ</a>で特別な指示・教室変更がないか確認。 参照) → 第2部 II 1. 学生への連絡方法 特別な指示・教室変更がなければ、「共通教育授業科目時間割表」に記載された教室へ。 参照) → 第2部 II 2. (3) 教室</p>
履修科目修正期間	<p>⑤<a href="#">ユニパ</a>を用いてWebから学生時間割表 (履修申告結果) を確認・修正</p> <p> 修正することがなければ、ユニパは確認しなくてもいい？ 必ず<a href="#">ユニパ</a>で学生時間割表を確認してください。自分では履修申告や履修修正をしたつもりでも、うまく登録や修正ができていないことがあります。ここで登録ミスに気がつかなければ、授業を正しく受講していても成績 (単位) がもらえなくなります。修正後は、再度ユニパにアクセスし、自分の時間割表を確認しましょう。 参照) → 第2部 I 5. 履修申告の確認・修正</p> <p>⑥履修申告完了・履修確定</p>

共通教育履修案内・Moodle コース[共通教育学生掲示板](#)・[ユニパ](#)をしっかりと確認！！

# 【2025年度以前入学生、再履修及び編入生には、この履修案内は適用されませんので、注意してください。】

## 注 意

共通教育に関する連絡及び案内は、すべて下記の方法でお知らせします。

学生の皆さんは、毎日必ず1回は掲示板を確認する習慣をつけてください。うっかり掲示を見落としのために思わぬ不利益をこうむることがありますので、くれぐれも注意してください。

① 共通教育学生掲示板

Moodle コースに各種掲示を掲載します。

履修等に関する重要な伝達・連絡事項は共通教育学生掲示板によって行います。

URL : <https://lms-m41.mie-u.ac.jp/course/view.php?id=717>

② Universal Passport (ユニバ)

休講など各種お知らせ情報を提示します。

URL : <https://unipa.mie-u.ac.jp/uprx/>

## 三重大大学の授業時間

1・2 限 (1コマ目)	8 : 50 ~ 10 : 20
3・4 限 (2コマ目)	10 : 30 ~ 12 : 00
5・6 限 (3コマ目)	13 : 00 ~ 14 : 30
7・8 限 (4コマ目)	14 : 40 ~ 16 : 10
9・10 限 (5コマ目)	16 : 20 ~ 17 : 50
11・12 限 (6コマ目)	18 : 00 ~ 19 : 30 (補講期間・一部の授業のみ)

(注) 共通教育行事予定表中の補講期間には、11・12 限 (6コマ目) に補講があります。  
この期間中は、アルバイト、クラブ活動等の予定を入れないようにしてください。

この共通教育履修案内の記載内容について不明な点等があれば、次の問い合わせ先に尋ねてください。

【不明な点等の問い合わせ先一覧】 ※[at]は@(アット)に置き換えてください。

スタートアップセミナー	長濱 文与	nagahama.fumiyo[at]ars.mie-u.ac.jp
キャリア教育	長岡 みか	nagaoka.mika[at]dhier.mie-u.ac.jp
外国語（英語）	黒上 久生	kurokami[at]human.mie-u.ac.jp
データサイエンス	末原 憲一郎	suehara[at]bio.mie-u.ac.jp
ドイツ語	高橋 美穂	miho.takahashi[at]human.mie-u.ac.jp
フランス語	横田 悠矢	yokota[at]human.mie-u.ac.jp
中国語	白石 将人	shiraishi[at]human.mie-u.ac.jp
その他の未習外国語	太城 康良	ytashiro[at]ars.mie-u.ac.jp
スポーツ健康科学	笹山 健作	sasayama[at]edu.mie-u.ac.jp
科学的地域環境概論	丸山 直樹	sle[at]gecer.mie-u.ac.jp
英語で実施される科目	サコラヴスキー ジェシー	soko[at]ars.mie-u.ac.jp
教養基礎科目（副専攻科目）	大井 淳史	ooi[at]ars.mie-u.ac.jp
事務手続き全般	共通教育事務室	kyotu-office@ab.mie-u.ac.jp

# 目 次

三重大大学のカリキュラムの概要.....	1
<b>第 1 部 共通教育科目について.....</b>	<b>2</b>
I 理念・目的.....	2
II 共通教育科目の分類と位置づけ.....	3
1. 大学基礎科目.....	3
(1) スタートアップセミナー領域.....	3
(2) キャリア教育領域.....	3
(3) 外国語（英語）領域.....	3
(4) データサイエンス領域.....	4
(5) スポーツ健康科学領域.....	4
2. 教養基礎科目（副専攻科目）.....	4
(1) 歴史・文化分野.....	4
(2) 環境・科学分野.....	4
(3) 健康・医療・福祉分野.....	4
(4) 教育・公共分野.....	4
(5) 社会・経済分野.....	5
(6) 国際・外国語分野.....	5
3. 専攻基礎科目.....	5
<b>第 2 部 履修申告から単位認定まで.....</b>	<b>6</b>
I 履修申告.....	6
1. 履修申告について.....	6
2. 準備すべきもの.....	7
3. 履修申告上の注意.....	7
(1) 単位認定される授業科目.....	7
(2) 授業科目の重複履修.....	7
(3) 授業コード.....	7
(4) クラス指定科目.....	7
(5) クラス指定をしない科目.....	8
(6) 履修に関して注意が必要な科目.....	8
(i) 英語.....	8
(ii) 未習外国語（英語以外の外国語）.....	12
(iii) スポーツ健康科学.....	18
(iv) 科学的地域環境概論 I.....	18
(v) キャリア教育入門.....	19
(vi) データサイエンス I・II.....	19
4. 履修申告の期間.....	20
5. 履修申告の確認・修正.....	20
6. 副専攻制度について.....	21
(1) 副専攻科目.....	21

(2) 申請時期及び方法.....	22
(3) 問い合わせ先 .....	22
II 授業 .....	23
1. 学生への連絡方法 .....	23
(1) 掲示板 .....	23
(2) 学生メール .....	23
2. 平常授業 .....	23
(1) 学期 .....	23
(2) 授業時間 .....	24
(3) 教室 .....	24
3. 休講措置 .....	24
(1) 特別警報・警報発表時等の場合.....	24
(2) その他の場合 .....	24
4. 欠席 .....	24
5. 補講 .....	24
III 単位認定 .....	25
1. 試験・レポート .....	25
(1) 定期試験 .....	25
(2) 追試験 .....	26
2. 成績 .....	27
3. 成績評価に対する照会と申し立て.....	27
<b>第3部 共通教育科目関係資料.....</b>	<b>28</b>
I 共通教育校舎・教室配置 .....	28
II 共通教育授業科目・ガイドライン・副専攻分野一覧.....	32
1. 共通教育授業科目・ガイドライン一覧.....	32
2. 副専攻分野一覧 .....	41
III 学部・学科等の履修単位表（2026（令和8）年度入学者用）.....	48
1. 人文学部 .....	48
2. 教育学部 .....	50
3. 医学部 .....	51
4. 工学部 .....	53
5. 生物資源学部 .....	59
IV 2026（令和8）年度開講授業一覧 .....	60
【付録】特色のある授業 .....	72

## 三重大学のカリキュラムの概要

- 三重大学のカリキュラムは、大きく共通教育と専門教育に分かれます。
  - 共通教育の授業は主に全学共通教育センターで、専門教育の授業は主に各学部において開講されます。
  - この共通教育履修案内は、共通教育に関するものです。
  - 専門教育については、各学部の学修要項等を確認してください。
- 
- 共通教育の授業は、「大学基礎科目」、「教養基礎科目（副専攻科目）」、「専攻基礎科目」の3種類に分類されています。
  - 「大学基礎科目」は、三重大学のディプロマ・ポリシーである「4つの力」—「感じる力」「考える力」「コミュニケーション力」「行動する力」—を修得するためのベースとなる科目です。
  - 「教養基礎科目（副専攻科目）」は、多様な価値観を学び社会人としての教養と創造性を身に付けるための科目です。
  - 「専攻基礎科目」は、各学部（主専攻）の教育理念に基づき主専攻の準備教育となる科目です。

共通教育	大学基礎科目 全学必修 13単位
	教養基礎科目（副専攻科目） 選択（一部必修） 13単位
	専攻基礎科目 必修（学部・学科・コース等で異なる） 0～18単位

専門教育	各学部の学修要項等を参照してください
------	--------------------

## 第1部 共通教育科目について

### I 理念・目的

所属する学部・学科等にかかわらず、三重大学の全学生は、次の2つの理念に基づく「大学基礎科目」及び「教養基礎科目（副専攻科目）」を履修します。

**「三重大学のディプロマ・ポリシーである4つの力―「感じる力」「考える力」「コミュニケーション力」「行動する力」―を修得するための基礎となる」**

三重大学のディプロマ・ポリシーは、「感じる力」「考える力」「コミュニケーション力」「行動する力」の4つの力を十分に身に付けることです。これらの4つの力は、皆さんが三重大学に在学中の4年間を通して修得してもらうものです。共通教育では、皆さんがどの専門分野に進んでも役に立つ、十分な4つの力を身に付けるためのベースを提供します。

**「多様な価値観を学び社会人としての教養と創造性を身に付ける」**

現代社会には、多様な価値観が存在します。その多様な価値観を学び、それらの価値観を互いに尊重していくことが現代社会には必要であり、それが現代社会の教養となります。また、偉大な過去の先人の知恵を身に付けることも大事ですが、それだけに留まらず創造性を発揮していくことも求められています。そのために、多様な言語をはじめ、バラエティに富んだ、皆さんの創造性を刺激するような科目を準備しています。

共通教育では、以上の理念に基づく科目の他に、各学部・学科等の理念・目的に応じた「専攻基礎科目」も履修します。

## Ⅱ 共通教育科目の分類と位置づけ

全学生が履修する「大学基礎科目」及び「教養基礎科目（副専攻科目）」の概要は次の表のとおりです。以下、各分類の中の領域と分野について説明します。

分類	領域・分野		単位数
大学基礎科目	領域	スタートアップセミナー	2
		キャリア教育	2
		外国語（英語）	4
		データサイエンス	4
		スポーツ健康科学	1
教養基礎科目 （副専攻科目）	分野	歴史・文化	13
		環境・科学	
		健康・医療・福祉	
		教育・公共	
		社会・経済	
		国際・外国語	
合計			26

### 1. 大学基礎科目

大学で学ぶための基礎的な能力や自立した学修を可能とするスタディ・スキルを身に付けることを目的として、全学生が共通に学修する科目群です。

#### （1）スタートアップセミナー領域（授業科目名：「スタートアップセミナー」）

1年次前期の必修科目である「スタートアップセミナー」では、社会における諸問題について少人数でのグループで取り組むことを通して、本学のディプロマ・ポリシー（4つの力）についての理解を深めるとともに、大学での学びに必要なスタディ・スキルを習得する、グループでの課題達成を円滑に進めるために必要な知識やスキルを身につけるなど、本学で推進されているPBL型学習を自律的に進めていくために必要な力の育成を目指します。

#### （2）キャリア教育領域（授業科目名：「キャリア教育入門」）

三重大学ではキャリア教育について独自の方針（三重大学キャリア教育方針）を定めており、学生のキャリア発達を促す科目が多数あります。大学基礎科目の「キャリア教育入門」を履修することで、学生が自らの社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育むことを目指しています。

#### （3）外国語（英語）領域（授業科目名：「英語Ⅰ大学基礎」、「英語Ⅰコミュニケーション」）

自律的な学修を推進するため、また、グローバル化に対応した人材を育成するため、1年次に4単位を履修します。英語力の指標として、TOEIC® Listening & Reading（TOEICはTest of English for International Communicationの略）を用い、入学時のTOEIC IPテストの結果に基づいて習熟度別のクラス編成を行います。さらに、教養基礎科目（副専攻科目）として「英語Ⅱ発展」を開講していますので、積極的に履修してください。

#### (4) データサイエンス領域 (授業科目名:「データサイエンスⅠ」、「データサイエンスⅡ」)

デジタル革新と想像・創造力の融合によって、社会問題の解決や新たな価値の創造を行う社会を実現する原動力となる数理・データサイエンス・AIの基礎を理解し、関連するITスキル、統計解析スキルを身につけることを目的とします。

#### (5) スポーツ健康科学領域 (授業科目名:「スポーツ健康科学A」)

自律的・能動的学修力の基盤とするため「スポーツ健康科学A」を大学基礎科目として開講しています。スポーツ実践を通して他者との豊かなコミュニケーションを図るとともに、スポーツ科学や健康科学の知見に基づいて、健康的な生活ができる自己管理能力を育成します。

## 2. 教養基礎科目(副専攻科目)

幅広い教養を身に付けるための科目群です。

教養基礎科目(副専攻科目)は各自自由に選択して履修することができますが、学部・学科によって指定された科目もあるので、第3部Ⅲの履修単位表で確認してください。

### (1) 歴史・文化分野

情報化社会の発展に伴って、地域と密接に関わりつつ、グローバルな視点を持って活躍できる人材の育成がますます求められています。そのような人材に必要とされるのが、自国と諸外国の歴史や文化に対する深い洞察です。本分野では歴史、文化、思想、生活をテーマとするバラエティに富んだ授業科目を履修することができます。また、それによって、単一の価値観のみにとらわれない、豊かな発想と広い視野を獲得することを目指します。

### (2) 環境・科学分野

環境問題は様々な分野に関わる複雑な問題です。解決の糸口を得るためには、問題の本質を理解し、複合的な視点から洞察する力が必要です。また、環境問題に限らず、健康管理、原子力など科学技術的側面を持つ問題、社会的問題についても、数理科学、物理学、化学、生物学をはじめ、自然科学諸分野の知見に基づいて判断する力が必要です。そこで、本分野では環境問題や様々な自然科学の基礎理解を深め、科学的な考え方を習得します。

### (3) 健康・医療・福祉分野

人体の仕組みと働き、疾患のメカニズム、医学・医療の発展、健康管理、保健衛生、社会保障など、健康・医療・福祉を多面的な観点から理解することにより、深い教養と総合的な判断力、豊かな人間性を涵養するとともに、自律的・能動的な学修姿勢の醸成、地域活性化・グローバル化に対応できる力を育成します。また、スポーツ実践を通して他者との豊かなコミュニケーションを図るとともに、スポーツ科学や健康科学の知見に基づいて、健康的な生活ができる自己管理能力を育成します。

### (4) 教育・公共分野

個の成長を支え幸福を追求し、ひいては社会を維持し発展させていくための教育の諸問題を理解するためには、哲学、心理学、社会学、医学、数理科学などの幅広い知識を習得することが必要です。また、異なる考えや価値観の人たちが、どのように合意を作り解決していくかという公共の諸問題を理解するためにも、同様のことがいえます。本分野では、教育と公共の現代的諸問題に対応し解決を図ろうとする態度を、知識習得と探求・議論を往復する対話的で深い学びによって身につけていきます。

### **(5) 社会・経済分野**

国際社会に対応できる能力を育成するために、社会・経済に関する様々な事柄を学びます。社会は、異なる価値観を持った多数の人が集まって形成されます。家族、労働、教育、地域社会、メディアなどの多くのテーマについて学びます。また、私たちが生活する上で問題となる、生産や消費売買などの経済活動について学びます。

### **(6) 国際・外国語分野**

異なる文化や言語を持つ人々と深く交流するには、その背景にある価値観に興味と関心を持ち、尊重することが求められるとともに、自身の主張を明確に伝える語学力とコミュニケーション力が必要になります。本分野では、様々な語学をはじめ、政治経済、教育、保健医療などのテーマにも関わる授業を通して、国際理解のための技能と知識を身に付け、演習などを通じて情報収集・伝達や相互理解の方法を実践的に学ぶことで、多様な文化・言語を背景とする人々と協働する力を涵養します。

## **3. 専攻基礎科目**

全学生が履修する大学基礎科目・教養基礎科目（副専攻科目）とは異なり、所属する学部・学科・教育コースによって履修が異なる科目です。専門分野の基礎的な知識を育成する目的で開講されています。

## 第2部 履修申告から単位認定まで

共通教育の科目には、『卒業までに必ず履修しなければならない科目』と『選択して履修する科目』があります。すべての大学基礎科目は必ず履修しなければならない必修科目になります。教養基礎科目（副専攻科目）の多くは選択して履修することができますが、所属学部・学科・コース等によって履修が義務付けられている科目もあります（第3部 V 学部・学科等の履修単位表）。例えば、教養基礎科目（副専攻科目）である「英語 I TOEIC」は人文学部、工学部、生物資源学部では卒業までに修得する必要があります。共通教育科目の履修にあたっては、所属学部・学科・コース等の履修単位表をよく理解して、履修漏れのないように気を付けてください。

授業科目名の類似性から判断することなく、シラバス及び第3部 II 共通教育授業科目ガイドライン・授業科目一覧で確認して履修してください。

### I 履修申告

ここでは、どの学部においても共通の事項や手続きについて説明します。このほか、所属学部で行われる履修ガイダンスでは、各学部に応じた説明・情報が付加されます。

#### 1. 履修申告について

授業科目を履修するためには、まず履修申告を行わなければなりません。この手続きを間違ったり、忘れたりすると、授業を受けても単位認定されません。履修申告は単位修得をしようとする授業を受けるために、前期と後期の年2回、定められた期間に行うことが必要な手続きです。インターネットに接続されたパソコンから、「[UNIVERSAL PASSPORT](#)」（通称、ユニパ）と呼ばれるシステムを用いて Web 入力を行います。ユニパを利用する際には、ログイン画面に掲載されている、「履修登録の手順について」及び推奨ブラウザをよく確認してください。履修申告を完了したつもりでも、ユニパの扱いを誤っていると、正しく履修登録がされていないことがあります。

#### ※UNIVERSAL PASSPORT（ユニパ）とは？

ユニパは、掲示情報案内、履修登録、災害による休講情報、就職支援、健康診断結果閲覧、連絡先変更等を行う Web システムです。このうち掲示情報案内、履修登録、災害による休講情報、就職支援、連絡先変更については、学外からでもアクセス可能です。

UNIVERSAL PASSPORT ログイン画面 URL <https://unipa.mie-u.ac.jp/uprx/>

## 2. 準備すべきもの

- ・ 共通教育履修案内
- ・ 共通教育授業科目時間割表

全学共通教育センターのホームページ (<https://www.ars.mie-u.ac.jp/>) から確認してください。

〈学部からの配付物〉

- ・ 「新入生履修申告かんたんガイド」
- ・ 総合情報処理センター発行の「統一アカウント通知書」  
→ユニパ等の学内システムのログインに必要となります。ログイン ID 及びパスワードが記載されています。
- ・ 卒業要件が記載された冊子（「履修要項」、「学修要項」、「卒業資格履修単位一覧」等）  
→卒業・進級に必要な単位数・授業科目が記載されています。
- ・ 専門教育科目の授業時間割表

## 3. 履修申告上の注意

### (1) 単位認定される授業科目

第3部 II 共通教育授業科目ガイドライン・授業科目一覧に記載されている授業科目が単位認定され、成績通知書等に記載されます。

異なる英字がつけば異なる授業科目として単位数がカウントされます。同じ英字でも異なる数字がつけば、異なる授業科目として単位数がカウントされます。しかし、教養基礎科目（副専攻科目）では、1つの授業科目の中に、異なる授業テーマを持つ、複数の授業が開講されているものがあります。授業テーマの異なる同一授業科目を複数履修する場合、卒業要件を満たす単位数として取り扱われるのは、1授業科目（1授業テーマ）の単位数のみであることに、特に注意してください。ただし、英語については、同じ授業科目を2回以上履修し、単位修得した場合、2単位まで卒業要件を満たす単位として扱われる場合があります。

### (2) 授業科目の重複履修

卒業要件を満たす単位数として扱われるのは1科目（1授業テーマ）ですが、同じ授業科目であっても異なる授業テーマの授業を複数履修することはできます。このように同じ授業科目を2回以上履修し、単位を修得することを重複履修といいます。単位を修得できなかった授業科目を再度履修する場合は、再履修となり、重複履修とはなりません。

重複履修を行う場合は別途手続きが必要です。**重複履修を希望する場合は、所定の手続き期間内に、共通教育事務室において別途手続き**をしてください。

なお、手続きにより重複履修が可能となっても、CAP制（履修登録上限単位数）の上限を超えないかを確認してください（CAP制については所属学部の学修要項等を参照してください）。

### (3) 授業コード

「共通教育授業科目時間割表」にはアルファベットLと9ケタの英数字からなる「授業コード」が記入してあります。同一時限、同一教員の授業でも、科目名が違えば別の授業コードになりますので履修申告の際には、自分が選択した授業の「授業コード」を確認してください。

### (4) クラス指定科目

大学基礎科目、教養基礎科目（副専攻科目）及び専攻基礎科目の一部では、所属学部・学科・学籍番号等で、受講する時限やクラスが指定される場合もあります。

## (5) クラス指定をしない科目

クラス指定のない科目は、各自の希望する時限で自由に履修することができます。クラス指定をしない科目の履修については、履修申告して第1回目の授業に出席し、授業内容を確認したうえで、履修するかどうかを決定してください。履修しない場合は、履修科目修正期間に取り消してください。

なお、クラス指定をしない科目では、授業内容や教室の収容人数等の事情で、授業担当教員が履修者数を制限する「受講人数調整」を行うことがあります。「受講人数調整」を行った授業については、「受講人数調整結果」を、Moodle コース [共通教育学生掲示板](#) に掲示します。また、最新の「受講人数調整」等に関する詳細な情報については、直接、授業担当教員に確認するようにしてください。

→参照) 第2部 II 1. 学生への連絡方法

## (6) 履修に関して注意が必要な科目

### (i) 英語

#### ①必ず履修しなければならない科目

英語の必修単位数は学部によって異なります。「英語 I」の授業科目のうち「英語 I 大学基礎」及び「英語 I コミュニケーション」は、全学部必修です。「英語 I TOEIC」は、人文学部・工学部・生物資源学部では卒業のために履修が必要な科目となっています。

#### ◎【人文学部、工学部、生物資源学部】

必ず履修しなければならない単位数：6 単位

1 年次前期	1 年次後期
英語 I 大学基礎 (1 単位)	英語 I 大学基礎 (1 単位)
英語 I コミュニケーション (1 単位)	英語 I コミュニケーション (1 単位)
英語 I TOEIC 火曜クラス (1 単位)	
英語 I TOEIC 木曜クラス (1 単位)	

※4月に実施する TOEIC IP テストで 600 点以上を取得すると「英語 I TOEIC」の 2 単位は評価点 10 で認定されます。また、500 点以上で「英語 II 発展」(中・上級の教養基礎科目(副専攻科目))の履修が可能になりますので、さらなる英語力の向上のために是非履修してください。

#### ●自動登録

「英語 I 大学基礎」「英語 I コミュニケーション」及び「英語 I TOEIC」の各授業科目は、1 年次 4 月に実施する TOEIC IP テストの結果に基づきクラス編成を行い、前期・後期ともに、全て自動で履修登録されます。従って、履修申告の必要はありません。

#### ●前期第 1 回目の授業(仮クラス)と第 2 回目以降の授業

上記 3 科目の前期第 1 回目の授業は全て「仮クラス」で行われます。Moodle コース [共通教育学生掲示板](#) に掲示される英語仮クラス一覧表を確認し、指定されたクラスで授業を受けてください。第 2 回目の授業より、TOEIC IP テストの結果に基づいたクラス編成となります。クラス分けは 4 月 16 日(木)に発表されます。各自必ず確認してください。なお、後期の「英語 I 大学基礎」及び「英語 I コミュニケーション」のクラス編成もこの前期のクラス編成がそのまま適用されます。

●「英語 I TOEIC」履修について

1 年次前期に集中して学習し、火曜と木曜の週 2 回授業を行います。詳細については、第 1 回目の授業時に説明します。

●「英語 I TOEIC」成績評価・単位認定について

「英語 I TOEIC」の単位認定は、火曜・木曜、それぞれの授業での合否及び 1 年次 7 月に実施する TOEIC IP テストのスコアに基づきます。認定される単位数は (C) に示すとおりです。

- (A) 各授業の合否 不合格 or 合格
- (B) TOEIC IP テスト (1 年次 7 月実施) のスコア 400 点未満 or 400 点以上
- (C) 認定される単位数 授業の評価と TOEIC IP テストの組み合わせ
- |           |             |           |
|-----------|-------------|-----------|
| 2 単位認定*   | 2 つの授業の合格   | + 400 点以上 |
| 1 単位認定**  | 1 つの授業のみの合格 | + 400 点以上 |
| 1 単位認定*** | 2 つの授業の合格   | + 400 点未満 |
| 認定単位なし    | 上記以外の組み合わせ  |           |

\* 2 単位認定の場合の評価点：評価点 7 以上で 2 単位認定されます。

\*\* 1 単位認定の場合の評価点：評価点 7 以上で 1 単位認定されます。

\*\*\* 1 単位認定の場合の評価点：評価点 6 で 1 単位認定されます。ただし、TOEIC IP テストを受験しなかった場合、単位は認定されません。

評価点は下記のとおりです。

7 月 TOEIC IP テスト スコア	英語 I TOEIC 授業の合否 (火曜授業 / 木曜授業)			
	合格 / 合格	合格 / 不合格	不合格 / 合格	不合格 / 不合格
600 以上	10 / 10			
520-595	10 / 10	10 / 5	5 / 10	5 / 5
480-515	9 / 9	9 / 5	5 / 9	
440-475	8 / 8	8 / 5	5 / 8	
400-435	7 / 7	7 / 5	5 / 7	
360-395	5 / 6	5 / 4	4 / 5	4 / 4
320-355	4 / 6	4 / 3	3 / 4	3 / 3
280-315	3 / 6	3 / 2	2 / 3	2 / 2
240-275	2 / 6	2 / 1	1 / 2	1 / 1
235 以下	1 / 6	1 / 1		

※なお、1 年次 4 月の TOEIC IP テスト同様、1 年次 7 月以降の TOEIC IP テストで 600 点以上取得の場合には、授業の評価とは関係なく、「英語 I TOEIC」の未修得単位が評価点 10 で認定されます。

**※重要：**三重大学内では、共通教育が実施する TOEIC IP テストのほかに、三重大学生協の TOEIC IP テスト、国際ビジネスコミュニケーション協会の TOEIC 公式テストが実施されています。「英語 I TOEIC」の単位認定には、[共通教育行事予定表](#)に記載されている、共通教育が実施する TOEIC IP テストのみが有効です。

◎【教育学部、医学部】

必ず履修しなければならない単位数：4単位

1年次前期	1年次後期
英語Ⅰ大学基礎（1単位）	英語Ⅰ大学基礎（1単位）
英語Ⅰコミュニケーション（1単位）	英語Ⅰコミュニケーション（1単位）

※「英語Ⅰ TOEIC」を履修することはできません。教育学部、医学部の学生で TOEIC に関心がある場合は、選択して履修する科目の「英語Ⅰ初級 TOEIC」を履修してください。4月の TOEIC IP テストで 500 点以上を取得した場合は「英語Ⅱ発展」（中・上級の教養基礎科目（副専攻科目））を履修することもできます。

●自動登録

「英語Ⅰ大学基礎」及び「英語Ⅰコミュニケーション」の各授業科目は、1年次4月に実施する TOEIC IP テストの結果に基づきクラス編成を行い、前期・後期ともに、全て自動で履修登録されます。従って、履修申告の必要はありません。

●前期第1回目の授業（仮クラス）と第2回目以降の授業

上記2科目の前期第1回目の授業は全て「仮クラス」で行われます。Moodle コース [共通教育学生掲示板](#) に掲示される英語仮クラス一覧表を確認し、指定されたクラスで授業を受けてください。第2回目の授業より、TOEIC IP テストの結果に基づいたクラス編成となります。クラス分けは4月16日（木）に発表されます。各自必ず確認してください。なお、後期の「英語Ⅰ大学基礎」及び「英語Ⅰコミュニケーション」のクラス編成もこの前期のクラス編成がそのまま適用されます。

②選択して履修する科目

●「英語Ⅰ初級 TOEIC」

「英語Ⅰ初級 TOEIC」は教養基礎科目（副専攻科目）で自由に選択できる1単位の授業科目で合計2単位まで修得することが可能です。授業の詳しい内容はシラバスを参照してください。

※「英語Ⅰ初級 TOEIC」は「英語Ⅰ TOEIC」の再履修には使えません。

●「英語Ⅱ発展」

(A)「英語Ⅱ発展」は教養基礎科目（副専攻科目）で自由に選択できる科目です。以下のいずれかの条件を満たしている学生は、積極的に履修してください。

(a) TOEIC IP テストで 500 点程度かそれ以上のスコアを取得している学生（入学時（4月）の TOEIC IP テストやそれ以降（7月など）の TOEIC IP テストでのスコアを含む）

(b) 1年次後期であれば1年次前期における、2年次以降であれば1年次における、必修の英語Ⅰ科目の単位をすべて修得済みの学生

(B)「英語Ⅱ発展」には以下の授業科目があり、同じ授業科目名は、合計で2単位まで修得することが可能です。ただし、同一学期に同じ授業科目を2単位分履修する場合は、必ず担当教員の異なる授業を履修してください。重複履修の手続きも必要となります。各授業の詳しい内容はシラバスを参照してください。

授業科目名	内容
英語Ⅱ発展A a（1単位）	プレゼン（基礎）
英語Ⅱ発展A b（1単位）	プレゼン（Academic）
英語Ⅱ発展B（1単位）	英語での読解と討論
英語Ⅱ発展C（1単位）	英語ライティング
英語Ⅱ発展D（1単位）	ビジネス英語
英語Ⅱ発展E（1単位）	TOEIC 上級者向け

※同じ授業科目について2回（2単位）まで単位を修得することができます。

### ③必ず履修しなければならない科目の再履修・編入及び休学明けの履修について

#### ●「英語 I TOEIC」の再履修（人文学部、工学部、生物資源学部のみ対象）

(A) 「英語 I TOEIC」 2 単位を未修得（1 単位修得もしくは単位修得なし）の場合は「英語 I TOEIC」集中再履修クラスを履修してください。

※「英語 I 初級 TOEIC」は「英語 I TOEIC」の再履修には使えません。

(B) 「英語 I TOEIC」集中再履修クラスの評価について

「英語 I TOEIC」集中再履修クラスの評価は授業の合格と授業直後の TOEIC IP テストの結果によります。集中再履修クラスの授業に合格し、授業直後の IP テストのスコアが 400 点未満の場合は評価点 6、400 点以上の場合、評価点 7 以上で 1 単位が認定されます

(400 点→7、440 点→8、480 点→9、520 点→10)。600 点以上の場合、「英語 I TOEIC」の未修得単位（1 単位もしくは 2 単位）が評価点 10 で認定されます。

(C) 開講時期と対応する IP テストについて

「英語 I TOEIC」集中再履修クラスは、9 月及び 3 月に開講します。9 月集中再履修クラスの TOEIC IP テストは 9 月に実施し、3 月集中再履修クラスの IP テストは翌年度 4 月に実施します（新入生用の 4 月 TOEIC IP テストが対象となります）。

開講時期：9 月（TOEIC IP テスト）

3 月 TOEIC IP テストは翌年度 4 月に実施

日程については、[共通教育行事予定表](#)で確認してください。

※7 月 TOEIC IP テストを受験することはできません。

(D) 「英語 I TOEIC」集中再履修クラスによる単位認定の時期について

(a) 9 月の集中再履修クラスと 9 月 IP テストによる単位は後期の単位として認定されます。

(b) 3 月の集中再履修クラスと翌年度 4 月の IP テストによる単位は翌年度前期の単位として認定されます。

(E) 履修登録について

集中再履修クラスについてはユニパによる履修登録は必要ありません。掲示に注意し、必ず教科書を購入して第 1 回目の授業に出席してください。

	IP テスト	単位認定の時期	履修登録
9 月「英語 I TOEIC」 集中再履修クラス	9 月 IP テスト	後期	不要 (掲示に注意すること)
3 月「英語 I TOEIC」 集中再履修クラス	翌年度 4 月 IP テスト	翌年度前期	

#### ●「英語 I 大学基礎」、「英語 I コミュニケーション」の再履修

2 年次以降に再履修クラスを履修してください。1 年次後期には履修できません。

#### ●編入及び休学明けの場合の「英語 I」履修

「英語 I」を履修しようとする年度に配付される前年度以前入学者対象の共通教育履修案内の英語の当該箇所を参照してください。ただし、1 年次前期を休学し、後期から復学する場合は英語履修相談を受けてください。

#### ●英語履修相談

前期・後期ともに、履修申告時に「英語履修相談」を行います。英語の履修に関して質問がある場合は、相談に来てください。「英語履修相談」の日時・場所については、Moodle コース共通教育学生掲示板に掲示します。

## (ii) 未習外国語（英語以外の外国語）

### ①学習の目的、履修上の注意

未習外国語科目では、それぞれの言語を習得することにより、その言語が使用される文化を理解することを目的として、以下の7種類の言語から選択して履修します。

なお、上記の選択に際し、履修者の母語である未習外国語科目を履修することはできません。また、母語以外であっても、入学前に生活上で主に使用していた言語や、在籍していた学校での主要な授業言語などは履修できませんので、注意してください。

ドイツ語	フランス語	中国語	朝鮮・韓国語
ロシア語	スペイン語	ポルトガル語	

### ②教養基礎科目（副専攻科目）の履修方法

教養基礎科目（副専攻科目）の選択科目として、すべての学部の学生が未習外国語科目を履修することができます。それぞれの言語について、初級（I）として、次の4科目（各1単位）を設けます。

〇〇語 I A a, 〇〇語 I A b	対象言語の文法を中心とした基礎知識
〇〇語 I B a, 〇〇語 I B b	対象言語の基礎的な文法の知識を用いた会話・作文・講読

I A bおよびI B bは、それぞれI A aおよびI B aでの学習内容を踏まえた発展的な内容を含むため、それぞれのI aの単位を修得した上で履修することが必要です。履修者は、修得する単位数によって、次のように組み合わせる履修します。

なお、各言語の初級の内容をしっかりと修得するために、I AおよびI Bともに、a、bを連続して受講することを推奨します。

#### 【ドイツ語, フランス語, 中国語】

1単位履修	〇〇語 I A a
2単位履修	〇〇語 I A a, 〇〇語 I A b
3単位履修	〇〇語 I A a, 〇〇語 I A b, 〇〇語 I B a
4単位履修	〇〇語 I A a, 〇〇語 I A b, 〇〇語 I B a, 〇〇語 I B b

#### 【朝鮮・韓国語, ロシア語, スペイン語, ポルトガル語】

1単位履修	〇〇語 I A a または 〇〇語 I B a
2単位履修	〇〇語 I A a, 〇〇語 I A b
	〇〇語 I A a, 〇〇語 I B a
3単位履修	〇〇語 I B a, 〇〇語 I B b
	〇〇語 I A a, 〇〇語 I A b, 〇〇語 I B a
4単位履修	〇〇語 I A a, 〇〇語 I B a, 〇〇語 I B b
	〇〇語 I A a, 〇〇語 I A b, 〇〇語 I B a, 〇〇語 I B b

また、人文学部の学生は、専攻基礎科目として選択した言語と同一言語のI A a, b、I B a, bを履修することはできません。

### ③必修の専攻基礎科目として未習外国語を履修する学部（人文学部）の履修方法

卒業単位における必修の専攻基礎科目として、7種類の言語から選択し、未習外国語科目を人文学部文化学科の学生は8単位、人文学部法律経済学科の学生は4単位を履修することが必要です。

#### ●ドイツ語, フランス語, 中国語

専攻基礎科目として、それぞれの言語について、以下の4授業科目（各1単位）を設けます。人文学

部の学生はすべて履修することが必要です。

〇〇語 I 基礎 a, 〇〇語 I 基礎 b	対象言語の文法を中心とした基礎知識
〇〇語 I 演習 a, 〇〇語 I 演習 b	対象言語の基礎的な文法の知識を用いた会話・作文・講読

なお、「中国語 I 基礎 a」及び「中国語 I 演習 a」の登録は、同時限に開講しているクラスのうち、共通教育授業科目時間割表に「(初回履修登録クラス)」と表示されたクラスに登録してください。各クラスの履修環境の差をなくすため、履修申告期間終了後にクラス分けを行います。履修者は、授業開始前に発表される「クラス分け結果」を確認し、指定されたクラスの授業に出席してください。また、履修科目修正期間内に、指定されたクラスへの登録の修正を各自で行ってください。

また、後期開講、「中国語 I 基礎 b」及び「中国語 I 演習 b」については、前期に履修したクラスに登録してください。

ドイツ語については、「ドイツ語 I 演習 a」のみ、履修者数の偏りを無くすために、履修申告期間終了後にクラス分けを行います。履修者は、授業開始前に発表される「クラス分け結果」を確認し、指定されたクラスの授業に出席してください。また、履修科目修正期間内に、指定されたクラスへの登録の修正を各自で行ってください。

### ●朝鮮・韓国語, ロシア語, スペイン語, ポルトガル語

教養基礎科目(副専攻科目)として開講されている当該言語の以下の4授業科目(各1単位)を、人文学部の学生はすべて履修することが必要です。専攻基礎科目としての認定の方法は、学部の指示に従ってください。

〇〇語 I A a, 〇〇語 I A b	対象言語の文法を中心とした基礎知識
〇〇語 I B a, 〇〇語 I B b	対象言語の基礎的な文法の知識を用いた会話・作文・講読

#### (A) 人文学部文化学科の8単位履修

人文学部文化学科では、必修の専攻基礎科目として未習外国語を合計8単位履修してください。履修は、次の2つのうちのいずれかの方法で行ってください。

- (a) 1年次に選択した言語と同じ言語について、「〇〇語 II 総合 a, b」「〇〇語 II 演習 a, b」の2種類の科目を前期・後期ともに履修する(授業は各1単位です)。

例 1

	前期	後期
1年次	フランス語 I 基礎 a	フランス語 I 基礎 b
	フランス語 I 演習 a	フランス語 I 演習 b
2年次	フランス語 II 総合 a	フランス語 II 総合 b
	フランス語 II 演習 a	フランス語 II 演習 b

- (b) 7種類の言語の中から2つを選択、「〇〇語 I 基礎 a, b」・「〇〇語 I 演習 a, b」(ドイツ語, フランス語, 中国語)、または「〇〇語 I A a, b」・「〇〇語 I B a, b」(朝鮮・韓国語, ロシア語, スペイン語, ポルトガル語)を履修する。

例 2

	前期	後期
1年次	フランス語 I 基礎 a	フランス語 I 基礎 b
	フランス語 I 演習 a	フランス語 I 演習 b

2年次	ドイツ語 I 基礎 a	ドイツ語 I 基礎 b
	ドイツ語 I 演習 a	ドイツ語 I 演習 b

例 3

	前期	後期
1年次	ドイツ語 I 基礎 a	ドイツ語 I 基礎 b
	ドイツ語 I 演習 a	ドイツ語 I 演習 b
2年次	スペイン語 I A a	スペイン語 I A b
	スペイン語 I B a	スペイン語 I B b

(B) 人文学部法律経済学科の4単位履修

人文学部法律経済学科では、必修の専攻基礎科目として未習外国語を合計4単位履修してください。7種類の言語の中から1つを選択、「〇〇語 I 基礎 a, b」・「〇〇語 I 演習 a, b」（ドイツ語, フランス語, 中国語）、または「〇〇語 I A a, b」・「〇〇語 I B a, b」（朝鮮・韓国語, ロシア語, スペイン語, ポルトガル語）を履修する（授業は各1単位です）。

例 4

	前期	後期
1年次	中国語 I 基礎 a	中国語 I 基礎 b
	中国語 I 演習 a	中国語 I 演習 b

例 5

	前期	後期
1年次	朝鮮・韓国語 I A a	朝鮮・韓国語 I A b
	朝鮮・韓国語 I B a	朝鮮・韓国語 I B b

④発展科目「〇〇語 II 総合 a, b」及び「〇〇語 II 演習 a, b」の履修

●「〇〇語 II 総合 a, b」「〇〇語 II 演習 a, b」

ドイツ語, フランス語, 中国語については、「〇〇語 I 基礎 a, b・〇〇語 I 演習 a, b」及び「〇〇語 I A a, 〇〇語 I A b, 〇〇語 I B a, 〇〇語 I B b」の発展科目として、以下の科目を開講します。

〇〇語 II 総合 a 〇〇語 II 総合 b	初級（I）での学修内容を踏まえた、対象言語のより高度な文法中心の知識
〇〇語 II 演習 a 〇〇語 II 演習 b	初級（I）での学習内容を踏まえた、対象言語のより高度な会話・作文・講読

1年次に専攻基礎科目の「〇〇語 I 基礎 a, b・演習 a, b」4科目、あるいは教養基礎科目（副専攻科目）の「〇〇語 I A a, b・B a, b」4科目として選択したものと同一言語について、「〇〇語 II 総合 a, b」「〇〇語 II 演習 a, b」の2種類の科目を履修します（授業は各1単位です）。

それぞれの科目の II b は、II a での学習内容を踏まえた発展的な内容を含むため、それぞれの II a の単位を修得した上で履修することが必要です。

「〇〇語 II 総合 a, b」「〇〇語 II 演習 a, b」は、教養基礎科目（副専攻科目）として開講されますが、人文学部文化学科の学生は専攻基礎科目として認定を受けることができます。認定の方法は、学部の指示に従ってください。

## ⑤未習外国語科目（ドイツ語, フランス語, 中国語）における検定試験の利用

未習外国語科目（ドイツ語, フランス語, 中国語）では、以下の方法で検定試験を単位認定に利用することができます。

### ●未習外国語科目（ドイツ語）

(A) 利用可能な検定試験：「ドイツ語技能検定試験」（主催：ドイツ語学文学振興会）

- (a) ドイツ語 I A・B 及びドイツ語 I 基礎・演習では、ドイツ語 I 前期までの学習で 5 級、ドイツ語 I 後期までの学習で 4 級、ドイツ語 II 後期までの学習で 3 級取得を目指します。
- (b) 年に 2 回、実施されます。全国どこの会場で受験しても結果は成績評価に反映されます。
- (c) ただし、該当授業の履修期間中に受験した検定試験のみが成績評価に有効となりますので、注意してください。

履修している授業科目	ドイツ語技能検定レベル	加算点
ドイツ語 II 総合 a ドイツ語 II 演習 a	3 級合格	2 科目 各 20 点
ドイツ語 II 総合 b ドイツ語 II 演習 b		
ドイツ語 I A b, ドイツ語 I 基礎 b ドイツ語 I B b, ドイツ語 I 演習 b	4 級合格	2 科目 各 20 点
ドイツ語 I A a, ドイツ語 I 基礎 a ドイツ語 I B a, ドイツ語 I 演習 a	5 級合格	2 科目 各 20 点

(B) 検定試験結果の申請方法

可否通知の提出方法は、各授業での指示に従ってください。

### ●未習外国語科目（フランス語）

(A) 利用可能な検定試験：「実用フランス語技能検定試験（仏検）」

（主催：フランス語教育振興協会（APEF））

- (a) フランス語 I 前期までの学習で 5 級、フランス語 I 後期までの学習で 4 級、フランス語 II 後期までの学習で 3 級取得を目指します。
- (b) 年に 2 回、実施されます。全国どこの会場で受験しても結果は成績評価に反映されます。
- (c) ただし、該当授業の履修期間中に受験した検定試験のみが成績評価に有効となりますので、注意してください。

履修している授業科目	フランス語技能検定レベル	加算点
フランス語 II 総合 b フランス語 II 演習 b	3 級合格	2 科目 各 20 点
フランス語 I A b, フランス語 I 基礎 b フランス語 I B b, フランス語 I 演習 b		
フランス語 I A a, フランス語 I 基礎 a フランス語 I B a, フランス語 I 演習 a	4 級合格	2 科目 各 20 点
	5 級合格	2 科目 各 20 点

(B) 検定試験結果の申請方法

担当の横田悠矢教員に連絡してください。

●未習外国語科目（中国語）

(A) 利用可能な検定試験：「漢語水平考試（HSK）」（主催：HSK日本実施委員会）

(a) 試験は、毎年、各所で複数回実施されています。時期と場所は各自がHSKのホームページで確認してください。

(b) 入学後のみではなく、入学前に受験したHSKも利用可能です。

(B) 成績評価への反映方法

(a) 入学後に受験したHSKの利用

履修している授業科目	中国語検定各回の可否	成績評価への反映
中国語 I A a, 中国語 I 基礎 a	HSK1 級合格	前期試験 20 点加算
中国語 I A b, 中国語 I 基礎 b	HSK2 級合格	後期試験 20 点加算
中国語 I B a, 中国語 I 演習 a	HSK1 級合格	前期試験 20 点加算
中国語 I B b, 中国語 I 演習 b	HSK2 級合格	後期試験 20 点加算
中国語 II 総合 b 中国語 II 演習 b	受講初年度のHSK 3 級合格	後期試験 20 点加算

(注) HSKでの1級合格は、後期「中国語 I A b」、「中国語 I 基礎 b」、「中国語 I B b」及び「中国語 I 演習 b」の成績評価には反映されません。また、成績に反映できるのは、前期、後期のそれぞれの授業終了日（中国語の授業の最終日ではなく、授業日程の最終日）までに授業で告知された所定の方法でHSKの「成績通知書（PDF データ）」を提出した場合に限ります。受験から「成績通知書（PDF データ）」の取得までには一ヶ月程度を要するので、受験者は日程に注意してください。

(C) 入学以前に受験したHSKの利用

入学・編入以前に中国語をすでに学習していて、過去にHSK 2級または3級のいずれかを取得済みの者は以下のように単位認定するので、上級クラスを履修してください。但し、中国語 I A a、中国語 I 基礎 a、中国語 I A b、中国語 I 基礎 bはHSKの所定の級に合格していても単位認定されないなので、これらの授業は履修してください。

学年	入学前に受験した 検定試験の合格状況	単位認定される授業	初年度より履修できる 授業科目
1 年生	HSK 2 級取得	中国語 I B a, 中国語 I 演習 a 中国語 I B b, 中国語 I 演習 b	中国語 II 総合(a, b) 中国語 II 演習(a, b)
	HSK 3 級取得	学部・学科指定の必修単位を認定	—
3 年次 編入生	HSK 2 級取得	中国語 I B a, 中国語 I 演習 a 中国語 I B b, 中国語 I 演習 b	中国語 II 総合(a, b) 中国語 II 演習(a, b)
	HSK 3 級取得	学部・学科指定の必修単位を認定	—

(D) HSKの結果の申請方法

- (a) 入学後に合格したHSK：成績通知書の提出方法は各授業での指示に従ってください。
- (b) 入学以前に合格したHSK：担当の白石将人教員に連絡してください。

## ⑥履修相談

履修に関してわからないことがある場合には、以下連絡先へメールにて相談するか、メールでアポイントメントを取り対面にて相談してください。 ※[at]は@（アット）に置き換えてください。

### ●ドイツ語

ドイツ語教務担当教員 高橋 美穂 (miho.takahashi[at]human.mie-u.ac.jp)

### ●フランス語

フランス語教務担当教員 横田 悠矢 (yokota[at]human.mie-u.ac.jp)

### ●中国語

中国語担当教員 白石 将人 (shiraishi[at]human.mie-u.ac.jp)

### ●その他の言語

未習外国語科目担当教員 太城 康良 (ytashiro[at]ars.mie-u.ac.jp)

### (iii) スポーツ健康科学

#### ①「スポーツ健康科学A」及び「スポーツ健康科学B」

##### ●内容と単位認定

本授業では、スポーツ活動を実施するとともに、心身の健康について理解し自己への「気づき」を深めるために、体力テスト、心理面や生活面の調査、運動強度の測定など、自己のデータをもとに、自己の現在の状態、また授業の中での変化、授業を通しての変化を体験し、理解します。ただし、上記のすべての項目を測定すると、スポーツ活動そのものが短縮されるため、種目・担当教員によって測定の内容は異なってきます。測定の意義・意味については実習中に解説します。また、スポーツ技能の習得は、実践を通して身につくものですので、休まずに出席することが単位認定の不可欠な条件となります。その上で評価は、課題習熟度、授業態度（積極性・協調性など）、レポートなどの観点から総合的に行います。なお、スポーツ活動の内容については、シラバスを参照してください。

「スポーツ健康科学」は前期に「スポーツ健康科学A」1単位、後期に「スポーツ健康科学B」1単位を履修してください。

##### ●履修申告

各学部学生は、在籍する学部・学科等に指定された曜日・時限の「スポーツ健康科学A」及び「スポーツ健康科学B」を履修してください。なお、疾病や外傷、その他の障がい等によって通常の授業を受講することが困難な者は全学部対象の曜日・時限を指定しない授業として開講されている「アダプテッドスポーツ」の運動種目（コース）を履修してください（履修を希望する場合は、その旨を第1回目の授業時（履修ガイダンス）の前までに授業担当教員に申し出てください）。

履修申告は「スポーツ健康科学A」及び「スポーツ健康科学B」ともに次の手順で行います。

- (A) まず通常の履修申告期間に、指定されたクラスに開講されている運動種目の中から、希望する種目一つを選んで登録してください。これは仮の申告です。
- (B) 次に4月及び10月の第1回目の授業時に第一体育館において履修ガイダンスを実施し、種目を決定するので必ず出席してください。この時本人の希望は考慮しますが、施設・用具等の諸条件により希望どおりにならないこともあります。希望者が多数の場合、抽選等で種目を決定します。
- (C) 履修ガイダンスによって決められた種目を前期・後期それぞれの履修科目修正期間に正しく登録してください（仮申告と同じ種目になった場合は確認してください）。これが本申告となります。

※第1回目の授業に出席できなかった者は、第2回目の授業までに教育学部1号館1階「保健体育事務室」にその旨を報告し、体育カードの作成と種目決定の手続きを行ってください。

※「スポーツ健康科学B」を履修する人文学部法律経済学科の学生は、履修申告人数の状況によって抽選となります。必ず第1回目の履修ガイダンスに出席すること。欠席の場合は、履修することができません。

### (iv) 科学的地域環境概論 I

##### ●授業形態

オンラインで公開される90分ビデオを視聴するオンデマンド授業（45分×2部構成）として開講します。各回の授業では、指定された期間（約2週間）でビデオ講義の視聴と理解度確認試験を受講します。また、各授業の開講期間中に担当教員による質問会を設けます。各授業は、必ず指定期間中に受講する必要があります。第8回の授業を受講後、最終試験を受けます。具体的な受講スケジュールについては、専用 Web サイトならびに履修登録者の学生メール宛にお知らせします。

## ●受講方法

本講義を受講するためには、[ユニパ](#)の履修登録と[専用 Web サイト](#)への受講登録の両方が必要です。[専用 Web サイト](#)に登録したのみでは、ビデオを視聴することはできませんが、本講義を履修したことにはなりませんのでご注意ください。必ず、[ユニパ](#)の履修登録と[専用 Web サイト](#)の受講登録、両方に登録してください。

・専用 Web サイト : <https://scienv.mie-u.ac.jp/scilets/>



①まず、[ユニパ](#)で履修登録を行ってください。

②次いで、オンデマンドビデオ視聴のために[受講登録ページ](#)で登録を行ってください。

・受講登録ページ : [https://scienv.mie-u.ac.jp/particiapte/student\\_mieu](https://scienv.mie-u.ac.jp/particiapte/student_mieu)



1) [受講登録ページ](#)にアクセスし、「受講登録 (新規ユーザ登録)」から学生メールアドレスを送信してください。学生メールアドレス以外が送信された場合には、本講義を履修することにはなりません。必ず、学生メールアドレスを使用してください。

2) 送信した学生メールアドレスに URL の記載されたメールが届きますので、その URL にアクセスしてください。

3) 指示に従って、氏名等を入力してください。

4) 受講のための ID 等が記載されたメールが届きます。

5) 受講の際には、4) のメールに記載された情報に従って[専用 Web サイト](#)を開いてください。

6) ビデオ授業を受け、理解度確認試験を受けてください。第 2 回から第 8 回の各授業は 90 分で、2 部構成になっています。必ず指定期間中に受講ください。

7) 第 8 回授業終了後に、最終試験を受けてください。

③受講生の受講状況 (ビデオ視聴記録、理解度確認試験、最終試験) については、[専用 Web サイト](#)で管理されます。

## (v) キャリア教育入門

学部・学科・教育コースによって授業内容が異なります。必ず指定クラスの授業を受講してください。

## (vi) データサイエンス I・II

学部・学科・教育コースによって授業内容が異なります。必ず指定クラスの授業を受講してください。

#### 4. 履修申告の期間

前期…4月 後期…9月

[共通教育行事予定表](#)で確認してください。

※前期のみ、集中講義の履修申告修正期間を設けます（6月）。

#### 5. 履修申告の確認・修正

履修申告内容の変更や追加等の修正が必要な場合の手続きです。前期・後期ともに[ユニパ](#)で修正を行います。下記の定められた履修科目修正期間内に手続きをしてください。原則として、履修科目修正期間後に履修申告の変更や追加等の修正を行うことはできません。履修申告内容の確認を怠り、必要な変更や追加等を行わず、誤りを放置した場合は、単位が認定されませんので、十分注意してください。

なお、実際に授業を受講してみて、別の授業科目を履修するよう変更することや履修そのものを取り消すことも期間内であれば可能です。ただし、授業内容や教室の収容人数等の事情により、すでに授業担当教員が「受講人数調整」を行っている授業科目を追加で履修申告することはできません。また、人数調整に当選したにもかかわらず、誤って履修登録を削除してしまった場合は、履修を登録し直すことができないため、当該授業を履修できなくなります。十分注意してください。

また、履修科目修正期間後は原則として履修申告を取り消すこともできません。履修を取りやめた授業の履修申告を期間内に取り消さずに、その後の授業に出席せず課題提出や試験を受験しなければ、低評価や不合格の成績がつき GPA (Grade Point Average) が下がるため、十分注意して下さい。ただし、履修科目修正期間後の受講人数調整により履修不可となった場合は、その科目の履修申告は削除され、そのコマは空きコマとなります。

※GPAについては「三重大学学生便覧『三重大学における GPA 制度の取扱いに関する要項』」を参照して下さい。

#### 履修科目修正期間

前期…4月 後期…10月

[共通教育行事予定表](#)で確認してください。

「共通教育授業科目時間割表」を確認し、履修申告に誤りを発見した場合は、必ず[ユニパ](#)で履修科目修正の手続きを行ってください。

※前期のみ、集中講義の履修申告修正期間を設けます（6月）。

## 6. 副専攻制度について

現代社会における複雑な課題に対しては、種々の分野を融合させた学際的なアプローチが必要となります。三重大学では、所属学部・学科の主専攻とは異なる分野の知識や視点を学ぶ機会を提供するものとして、教養基礎科目（副専攻科目）を用いた副専攻制度を設けています。教養基礎科目（副専攻科目）として開講されている授業について、同一分野の科目を10単位以上修得し申請することで、当該分野が副専攻として認められます。副専攻は一つの分野に限らず、複数の分野で申請・修得することが可能です。なお、副専攻としての履修及び申請は任意です。

また、三重大学では文理融合教育である「STEAM+L教育」\*を推進しています。副専攻修得を目指す場合には、所属学部で推奨されている分野での修得を目指してください。

### (1) 副専攻科目

すべての教養基礎科目が対象となります。教養基礎科目（副専攻科目）は、歴史・文化分野、環境・科学分野、健康・医療・福祉分野、教育・公共分野、社会・経済分野、国際・外国語分野の6つの分野に所属しており、科目によっては複数の分野（最大3分野）と紐づけされています。どの授業科目がどの分野に属するかについては、第3部 II 共通教育授業科目ガイドライン・授業科目一覧で確認してください。

各科目は1～3の分野に所属しています。複数の副専攻を申請する場合、ひとつの科目はひとつの副専攻の申請にしか用いることはできません。なお、専攻基礎科目として修得した教養基礎科目（副専攻科目）の単位を副専攻の単位に含めることはできません。副専攻の申請に使える科目は学部・学科・教育コースによって下記のように異なりますので注意してください。

#### 人文学部文化学科

- ・ 「英語 I TOEIC」は副専攻の申請に用いることはできません。
- ・ 専攻基礎科目「未習外国語」として履修した教養基礎科目（副専攻科目）8単位は副専攻の申請に用いることはできません。
- ・ 専攻基礎科目「選択科目（8単位）」として履修した教養基礎科目（副専攻科目）は副専攻の申請に用いることはできません。

#### 人文学部法律経済学科

- ・ 「英語 I TOEIC」は副専攻の申請に用いることはできません。
- ・ 専攻基礎科目「未習外国語」として履修した教養基礎科目（副専攻科目）4単位は副専攻の申請に用いることはできません。
- ・ 専攻基礎科目として履修した教養基礎科目（副専攻科目）「経済学A～G」2単位は副専攻の申請に用いることはできません。
- ・ 専攻基礎科目として履修した教養基礎科目（副専攻科目）「法学A～G」または「政治学A～G」2単位は副専攻の申請に用いることはできません。

#### 教育学部

- ・ 副専攻の申請に用いる科目に制限はありません。
- ・

#### 医学部医学科

- ・ 副専攻の申請に用いる科目に制限はありません。

#### 医学部看護学科

- ・ 「医学医療C2」及び「医学医療D」は副専攻の申請に使用できません。

#### 工学部総合工学科建築学コース

- ・ 専攻基礎科目として履修した教養基礎科目（副専攻科目）を副専攻の申請に用いることはできません（最大8単位が申請時に除外する科目に該当します）。

#### 工学部 総合工学科建築学コース以外のコース

- ・ 副専攻の申請に用いる科目に制限はありません。

#### 生物資源学部 生物資源学科

- ・ 副専攻の申請に用いる科目に制限はありません。

### （２）申請時期及び方法

申請時期は各学年末です。具体的な申請の期日は Moodle コース [共通教育学生掲示板](#) 等で確認してください。最終学年に申請を希望する場合は、最終学年9月までに下記の問い合わせ先（全学共通教育センター）に連絡してください。

副専攻の申請方法は「[副専攻ガイドブック](#)」に記載されています。また、Moodle コース [共通教育学生掲示板](#) で案内します。三重大学共通教育副専攻修了証が卒業証書とともに授与されます。就職活動等で卒業前に必要な場合は、副専攻修了見込証が発行されます。修了証の再発行は行いませんので、大切に保管してください。

### （３）問い合わせ先 ※[at]は@(アット)に置き換えてください。

副専攻制度全般に関するもの

全学共通教育センター：kyotu-kyomu[at]ars.mie-u.ac.jp

学部ごとの副専攻科目の制限に関するもの

人文学部：hum-gakumu[at]ab.mie-u.ac.jp

教育学部：edu-gakumu[at]ab.mie-u.ac.jp

医学部：med-gakumu[at]mo.medic.mie-u.ac.jp

工学部：eng-gakumu[at]eng.mie-u.ac.jp

生物資源学部：bio-gakumu[at]ab.mie-u.ac.jp

#### \*「STEAM+L教育」とは

三重大学では、5学部がそれぞれの専門的立場から、共通教育を通じて幅広い教養を身につけ、柔軟な発想や応用力、総合的な理解力の育成を目指し、分野横断的な教育を展開しています。その一環として、学生が総合知を身につけることを目的とした副専攻制度を導入しています。各学部の専門領域について横断的に学ぶことから、各学部の頭文字を組み合わせ、この副専攻制度を「STEAM+L教育」と呼んでいます。

- ・ S : Social & Humanity (人文)
- ・ T : Tech & Engineering (工)
- ・ E : Education (教育)
- ・ A : Agri, Forestry and Fisheries (生物資源)
- ・ M : Medicine (医)
- ・ L : Liberal Arts (教養教育 (本学では共通教育のことです))

## II 授業

### 1. 学生への連絡方法

【重要】履修、授業、試験、単位認定などの情報を見落としとして不利益を被らないよう十分注意し、毎日必ず1回は掲示板やメールを確認する習慣を付けてください。

#### (1) 掲示板

共通教育事務室及び授業担当教員から学生のみなさんへの連絡等は、原則としてすべて①Moodle コース共通教育学生掲示板及び②ユニパにより行います。

##### (i) 共通教育学生掲示板 (<https://lms-m41.mie-u.ac.jp/course/view.php?id=717>)

Moodle 上にコースとして開設されています。閲覧にはコース登録が必要で、完了すれば、「マイコース」の「共通教育学生掲示板」をクリックすればすぐ閲覧できます。コース登録は、次の手順に従ってください。

- ①Moodle に統一アカウントでログインする。
- ②「トップ画面」→「コースカテゴリー」→「共通教育」→「学生掲示板」  
→「共通教育学生掲示板」へと進む。
- ③「登録オプション」の画面で「私を登録する」をクリックする。

##### (ii) Universal Passport (ユニパ) (<https://unipa.mie-u.ac.jp/uprx/>)

#### (2) 学生メール

「学生メール」とは、大学が付与する学生用メールアドレス（学籍番号@m.mie-u.ac.jp）で、総合情報処理センター発行の「統一アカウント通知書」に記載されています。

Moodle コース「[共通教育学生掲示板](#)」に新着情報が投稿されるとメールで通知されます。各授業の Moodle コース内の「掲示板」でも新着情報が投稿されるとメールで通知されることがほとんどです。また、教員から個々の学生への連絡事項、台風・暴風警報等による休講連絡も「学生メール」により通知することがあります。メールには転送やフォルダ分類の設定などして新着メールの見落としを防いでください。

### 2. 平常授業

#### (1) 学期

前期…4月1日から9月30日まで

後期…10月1日から翌年3月31日まで

※授業開始の日時、祝日の調整による他曜日授業開講の日に注意してください。

→参照)「[2026 \(令和8\) 年度共通教育行事予定表](#)」

## (2) 授業時間

1・2 限 (1コマ目)	8:50 ~ 10:20
3・4 限 (2コマ目)	10:30 ~ 12:00
5・6 限 (3コマ目)	13:00 ~ 14:30
7・8 限 (4コマ目)	14:40 ~ 16:10
9・10 限 (5コマ目)	16:20 ~ 17:50
11・12 限 (6コマ目)	18:00 ~ 19:30 (補講期間・一部再履修クラスのみ)

## (3) 教室

「共通教育授業科目時間割表」には、各授業の行われる教室番号が記入してあります。第3部 I 共通教育校舎・教室配置図をあらかじめ確認し、教室を間違えないようにしてください。受講人数などの調整により、各授業の行われる教室が変更になった場合は、Moodle コース [共通教育学生掲示板](#) または [ユニパ](#) により通知します。

## 3. 休講措置

### (1) 特別警報・警報発表時等の場合

三重県北部（四日市市、桑名市、鈴鹿市、亀山市、いなべ市、木曽岬町、東員町、菰野町、朝日町、川越町）又は中部区域（津市、松阪市、多気町、明和町）のいずれかの市町に、特別警報（大雨・暴風・高潮・波浪・暴風雪・大雪の各特別警報）、暴風警報、暴風雪警報、伊勢湾に大津波警報、津波警報のいずれかが発令された場合の授業（定期試験を含む。）は休講とし、発令された警報のいずれかが

午前6時までに解除されない場合…午前中の授業等を休講とします。

午前10時までに解除されない場合…午後の授業等を休講とします。

### (2) その他の場合

本学周辺に洪水のおそれがある場合や、交通機関への各種災害の影響によって、(1) 以外にも休講措置がとられる場合があります。

詳細については全学ホームページ「特別警報・警報発表時の措置について」を参照してください。

休講措置をとる場合又は授業を再開する場合は、[ユニパ](#)にて周知します。

→参照) 三重大学ホームページ「特別警報・警報発表時等の措置について」

<https://www.mie-u.ac.jp/students/classwork/post-9.html>

## 4. 欠席

授業を欠席する（した）時は、各授業の担当教員へ「欠席届」を直接提出してください。「欠席届」は Moodle コース [共通教育学生掲示板](#) からダウンロードできます。

共通教育には「公欠」（病気、忌引など）の制度はありません。考慮されるべき事由があつて授業を欠席する場合は、事前又は事後に「欠席届」の提出とともに、各自が直接授業担当教員に申し出て、判断を仰いでください。

なお、授業担当教員の連絡先については、授業期間中に直接授業担当教員に確認するか、ウェブシラバスを確認してください。

## 5. 補講

休講などの補講を、補講期間中の6コマ目（11・12 限）に行います。補講の有無の決定は各授業担当者によります。この期間中は、アルバイト、課外活動等の予定を入れないようにしてください。補講期間については、[共通教育行事予定表](#)で確認してください。

## Ⅲ 単位認定

### 1. 試験・レポート

#### (1) 定期試験

- (i) 各授業科目の単位は、前期、後期に定期試験を行い、その成績によって認定されるのが原則です。
- (ii) 試験の実施は、原則として筆記試験によりますが、授業担当教員によっては、レポート、論文や課題の提出、プレゼン、実技、口述試験、平常の学習態度などによることもあります。

#### ★レポート作成の際の注意事項

- ①授業科目によってレポートに求められる条件が異なることがあります。授業担当教員の指示する条件に十分注意して、レポートを作成してください。
- ②書物・ウェブサイトなどに掲載された他者の文章を、出典を明示せず、自分のレポートに記載することは盗用にあたります。必ず出典を明示し、かぎ括弧を付けるなど、引用部分と自分の書いた文章の区別を明白にしてください。引用のルールを守らない場合は、成績評価の対象にされないことがあります。

→参照)「大学生のためのレポート作成ハンドブック」

[https://www.ars.mie-u.ac.jp/student/report\\_handbook.pdf](https://www.ars.mie-u.ac.jp/student/report_handbook.pdf)

- ③本学での学習において生成系 AI (以下、単に「AI」とします。) を利用する際は、以下に留意してください。

- ・授業の課題等 (レポート等も含む) や質問・問題の解答に当たって AI を利用した場合は、これを参考文献・引用文献に類する取扱いとして、何をどのように利用したか (URL、質問文 (またはキーワード)、アクセス日等) を必ず記載してください。
- ・授業によっては、AI の使用を禁止または限定する場合があります。その際は授業担当の教員の指示に従ってください。
- ・付記することなく AI を利用して、授業の課題等や質問・問題に解答した場合は、不正行為 (剽窃等) とみなされ、懲戒処分の対象となる場合があります。
- ・AI が出力したものを授業の課題等や質問・問題の解答として、そのまま利用する行為は、自身の勉強にならないばかりか、誤りが混ざっていることがあります。利用に際しては、AI が出力したものの的確性を自身でしっかり確認したうえで、自身の思考の参考にする程度にとどめましょう。
- ・AI の学習データには他者の著作物が含まれている可能性があります。流用した場合には、著作権侵害や剽窃として処罰の対象になるおそれがある点を忘れないでください。
- ・未発表の論文や秘密にすべき情報 (個人情報やプライバシー情報等) を AI に入力してしまうと、それらの情報が意図せずに、流出・漏えいしてしまうおそれがある点に十分気をつけてください。

→参照)「「生成系 AI」(ChatGPT 等) の利用に関する学修上の留意事項について【学生向け】」

<https://www.mie-u.ac.jp/students/20230530AIryuujikou.pdf>

- (iii) 定期試験 (各学期末に行うもの) は、原則、授業と同一曜日同一時限に実施されますが、別途、試験時間割を発表します。試験時間割は、試験の始まる 1 週間前に掲示しますので、十分注意してください。
- (iv) 受験の際は、必ず学生証を机の上に置かなければなりません。
- (v) 不正行為のないように、十分に留意してください。

#### ★共通教育における試験中の不正行為

共通教育における試験中の不正行為とは、次の各号のいずれかに該当する行為とします。

- ① 試験に関連した内容の紙片等を試験中に使用又は所持する行為

- ② 試験に関連した内容を事前に机、筆記用具、身体、衣服、壁等に書き込みをする行為
- ③ 他の学生の答案を覗き見る行為又は書き写す行為
- ④ 持込の許可のない書籍、辞書（電子辞書を含む。）、ノート、配付物等を利用する行為
- ⑤ 試験等において、携帯電話その他の通信手段（以下「携帯電話等」という。）を用いる行為（使用が許可されている場合を除く。）
- ⑥ 答案用紙を交換する行為
- ⑦ 替え玉受験（依頼した者、依頼された者いずれも対象とする。）
- ⑧ 使用が許可された電子機器又は通信機器から不正に情報を引き出す行為
- ⑨ 他の学生の試験を助ける目的で、解答（ヒントを含む。）を私語・動作等によって不正に連絡する行為又は試験に関連した内容の紙片を渡し、若しくは携帯電話等で情報を送信する行為
- ⑩ 成績評価に係る論文・レポート等の作成において、他人の著作物を盗用する行為又は他人が書いたレポート・著作物を自分のものとして提出する行為
- ⑪ 成績評価に係る論文・レポート等の作成において、他の学生の盗用等を助ける行為（論文・レポート等を作成して見せる、又は代筆する行為等）
- ⑫ その他試験等において成績評価の公正を損なう行為

不正行為があった場合は、不正行為のあった授業科目の成績評価は「無効」とし、不正行為のあった科目以外の当該学期に履修した他の共通教育科目（集中講義科目を含む。以下他の授業科目という。）の履修は、全て取り消します。ただし、他の授業科目で成績評価が「不合格」であった授業科目は、履修を取り消しません。  
また、不正行為発覚後において学生に謹慎を命じた場合の当該謹慎期間中における授業科目の取扱いも同様となります。

## （２）追試験

次に該当するやむを得ない事由により、定期試験を欠席した場合や欠席しなければならないことが予測される場合、全学共通教育センター教務委員会で認められれば、追試験を受けることができます。定められた期間に、共通教育事務室で、所定の手続きをしてください。

- (i) 本人の病気・怪我により欠席した場合
- (ii) 公共交通機関の遅延・不通により欠席した場合
- (iii) 自宅等の被災により欠席した場合
- (iv) 教育実習・看護実習・介護等体験・博物館実習等の学外における実習（以下「学外実習」という。）  
その他これらに準じるもので、実習先との日程調整が困難なため、欠席する場合（※）
- (v) その他やむを得ない事由

追試験出願期間：前期… 8月 後期… 2月

日程については、[共通教育行事予定表](#)で確認してください。

※学外実習のため欠席する場合は、定期試験期間開始日の2週間前まで

必 要 書 類：「追試験願」、欠席事由を証明するための書類等

手 続 場 所：共通教育事務室

試験受験の可否は、全学共通教育センター長が最終的に決定します。

前期追試験は夏季休業中、後期追試験は2月末までに実施します。ただし、追試験期間中に学外実習等の学部行事が重なった者については、追試験の日程を変更できます。

追 試 験 日 程：前期… 9月 後期… 2月

日程については、[共通教育行事予定表](#)で確認してください。

※追試験時間割表はMoodle コース[共通教育学生掲示板](#)で確認してください。

## 2. 成績

- (1) 評価は、試験の成績やレポート及び平常の学習態度等によって行います。
- (2) 評価は10点満点をもって表し、6点以上を合格とします。合格した場合には単位が認定されます。
- (3) 成績の評価、評定、評価内容の基準、もしくは成績評価の基準は、次の表のとおりです。
- (4) 成績の評価は、[ユニパ](#)で「成績通知書」を各自で確認してください。

〈成績評価の基準〉

判定	評価点	評定	評価内容基準
合格	10	AA	科目内容を修得し、到達目標を優れて満たしている
	9		
	8	A	科目内容を修得し、到達目標を十分に満たしている
	7	B	科目内容を修得し、到達目標を概ね満たしている
	6	C	科目内容を修得し、到達目標を必要限度満たしている
不合格	5以下	D	科目内容を修得したと認められず、到達目標を満たしていない

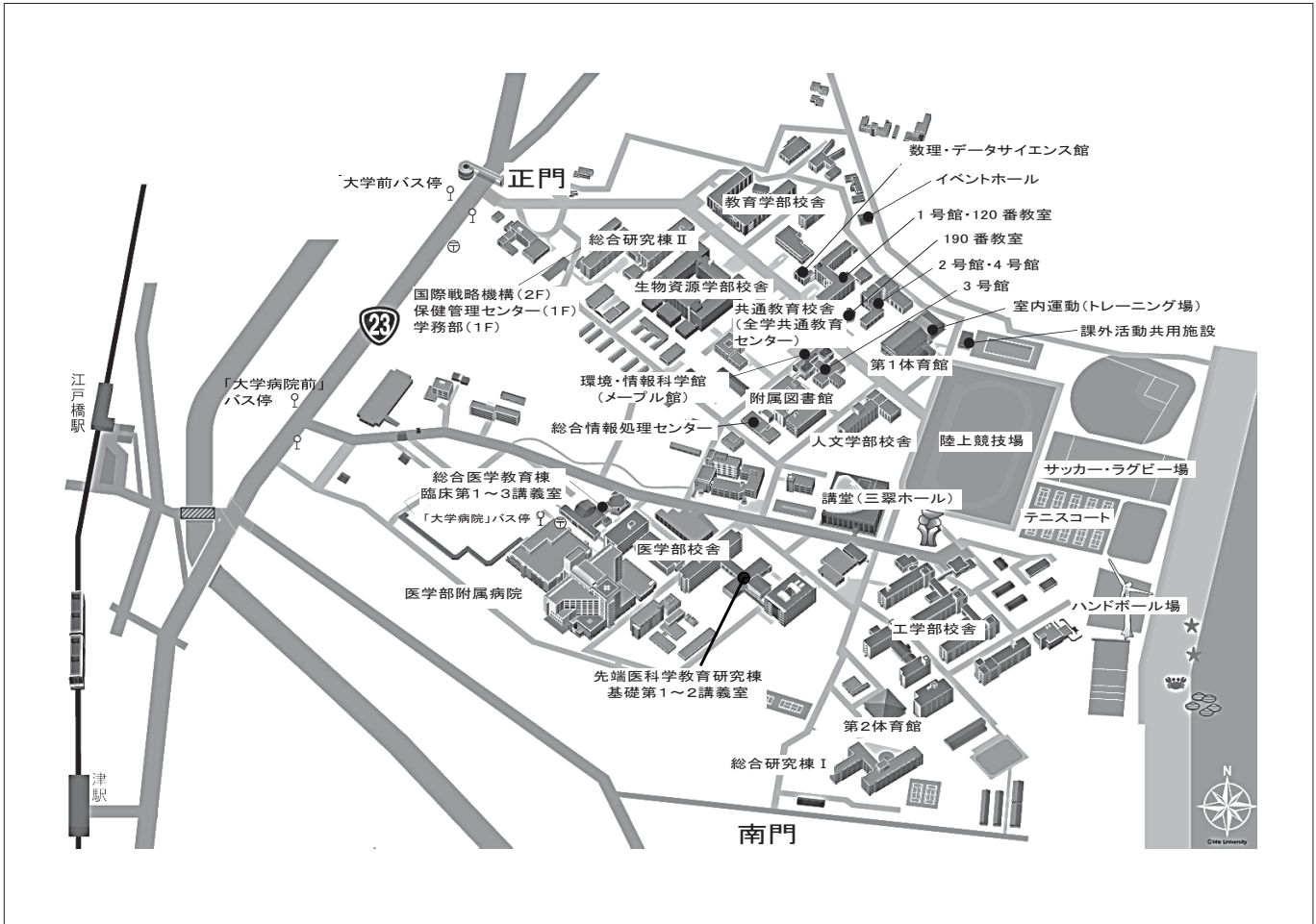
※これらの成績から GPA (Grade Point Average) を算出する方法については「三重大学学生便覧『三重大学における GPA 制度の取扱いに関する要項』」を参照して下さい。

## 3. 成績評価に対する照会と申し立て

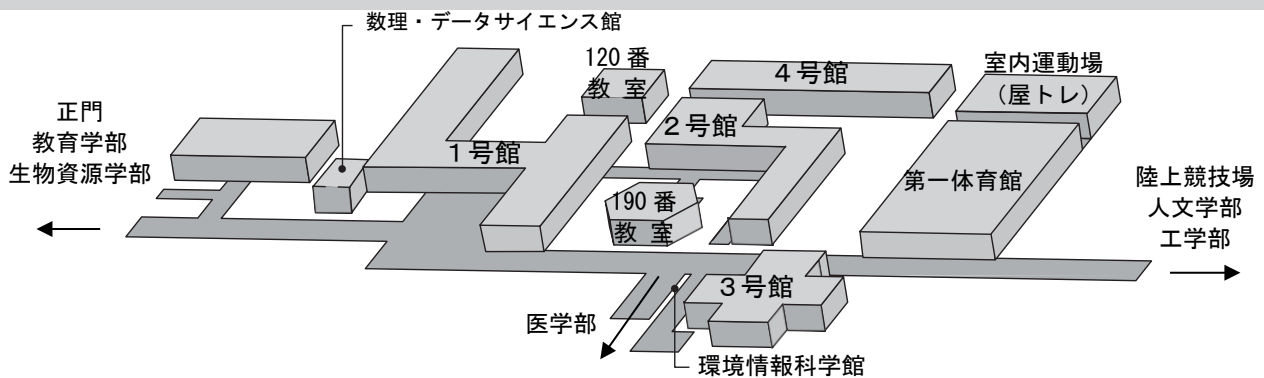
成績評価がどのような基準・方法で評価されたか等を詳しく知りたい場合は、成績評価ガイドラインに沿って、照会することができます。成績通知後に、所定の手続き以外の方法で授業担当教員にメールや対面などで直接連絡することはできません。詳細については、学生便覧を確認してください。

## 第3部 共通教育科目関係資料

### I 共通教育校舎・教室配置



### < 共通教育校舎等 拡大図 >



#### < 1号館 >

- 1階：101, 102, 105, 106
- 2階：202, 203, 205, 206, PBL 演習室 1
- 3階：301, 303, 304, 305, PBL 演習室 2
- 4階：402, 403, 404, 405, 410, 419

#### < 2号館 >

- 1階：181, 182, 183, PBL ラウンジ
- 2階：280, 281, 282
- 3階：380, 381, 382

#### < 3号館 >

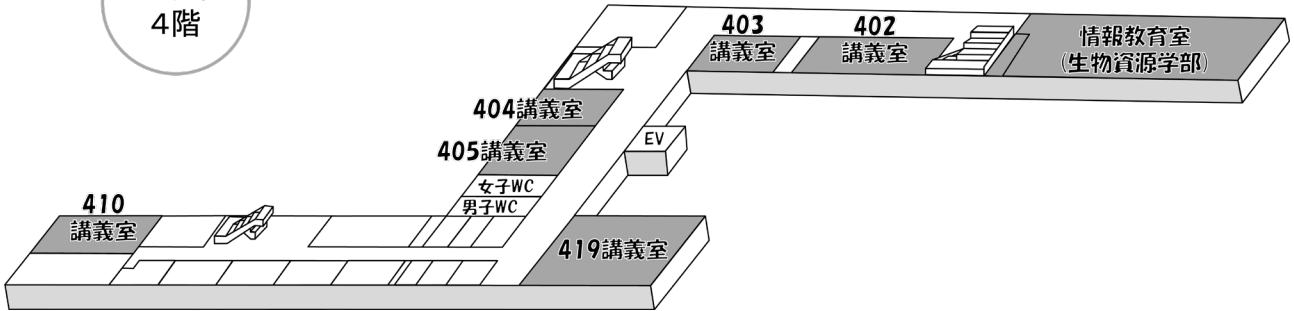
- 1階：1111, 1121, 1131
- 2階：1201, 1211, 1221, 1231
- 3階：1301, 1321

#### < 4号館 >

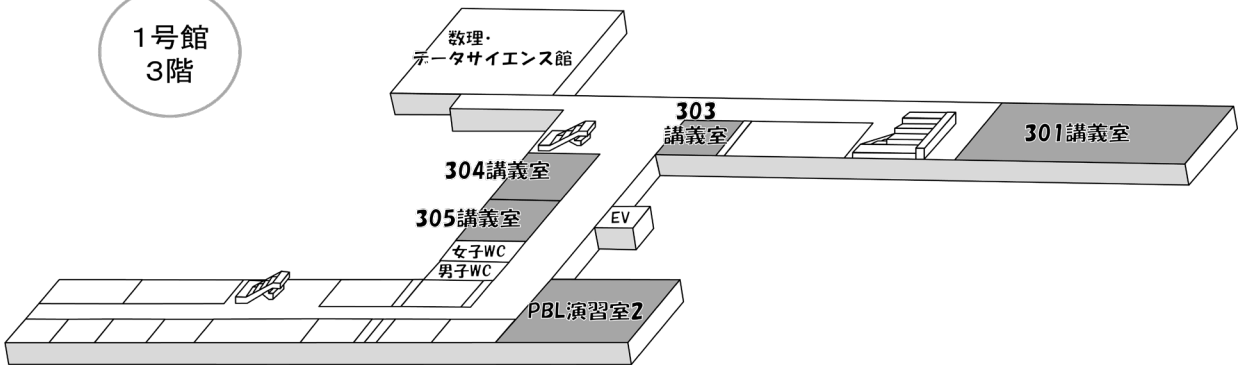
- 1階：物理学実験室
- 2階：化学実験室

〈共通教育校舎等教室配置図〉

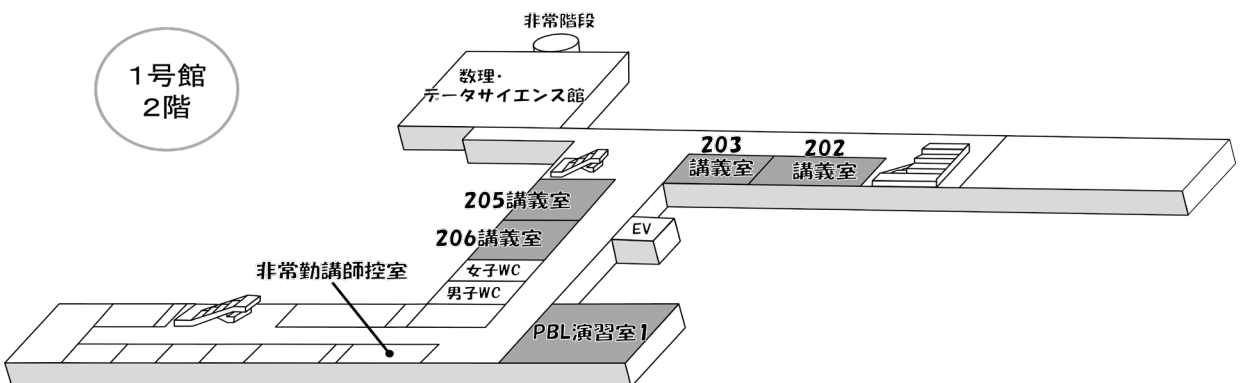
1号館  
4階



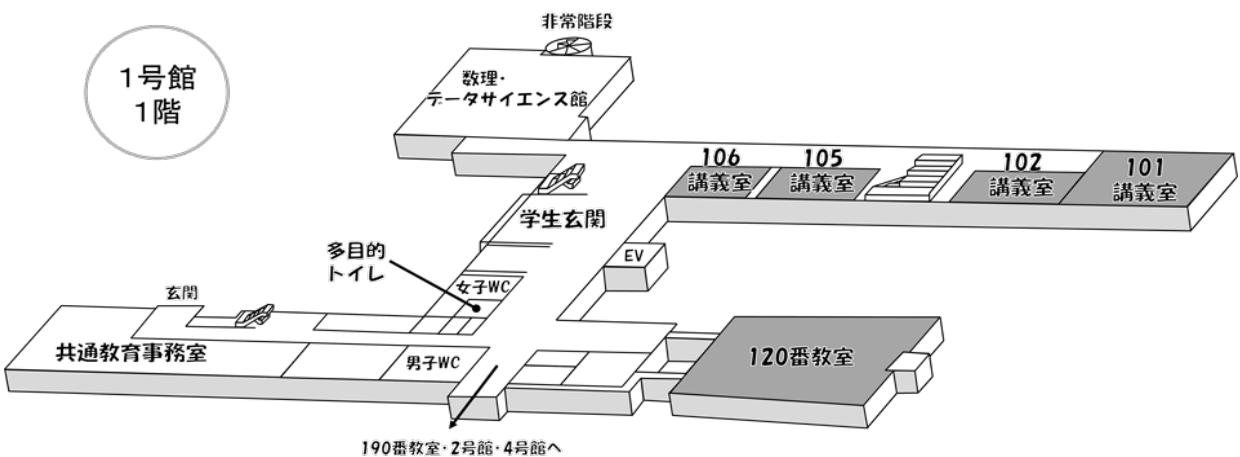
1号館  
3階



1号館  
2階



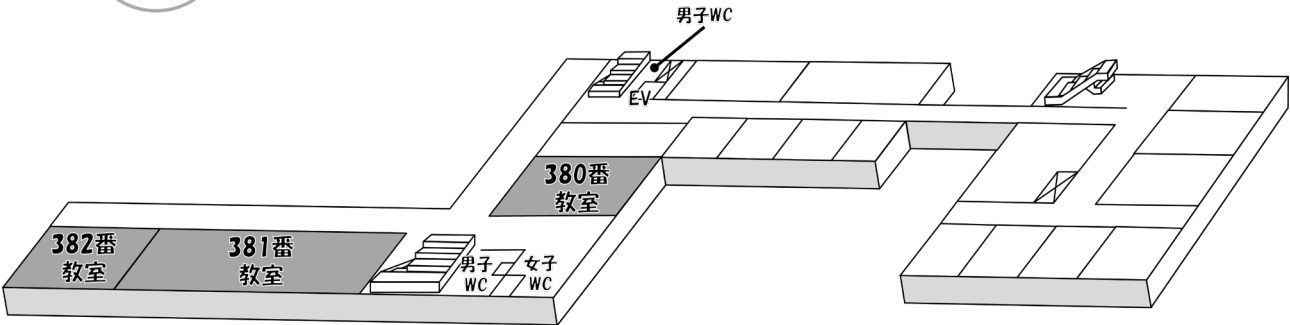
1号館  
1階



3階

2号館

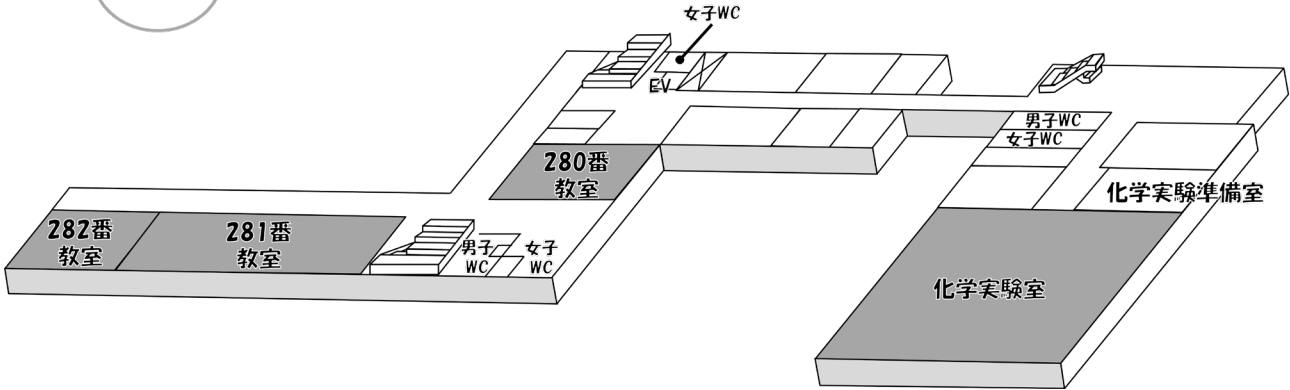
4号館



2階

2号館

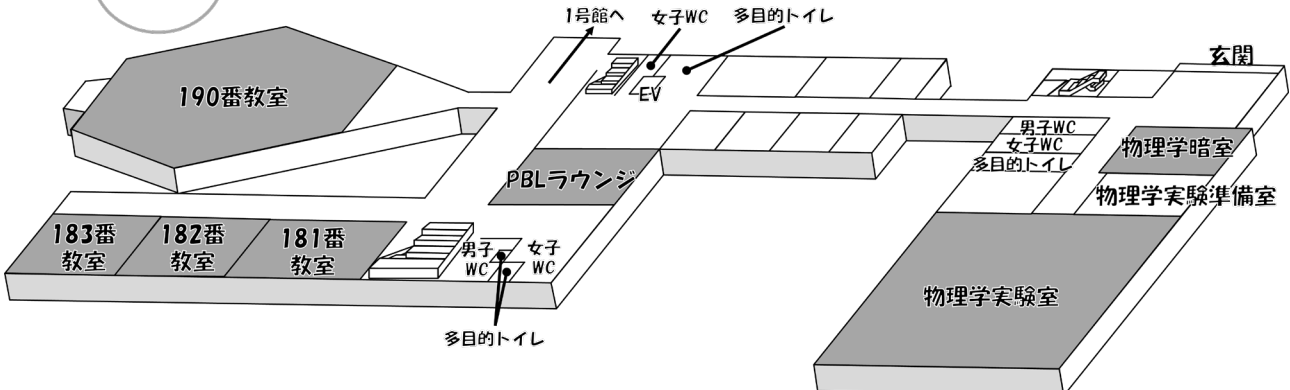
4号館



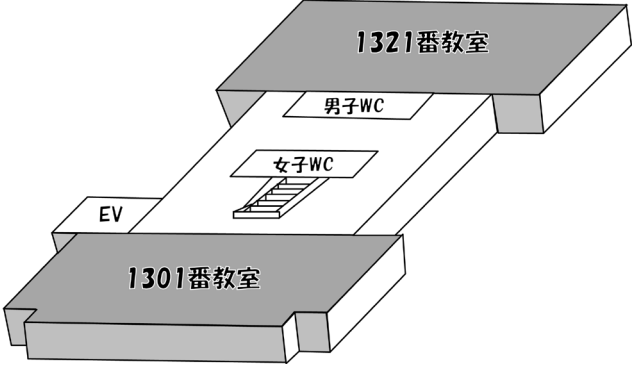
1階

2号館

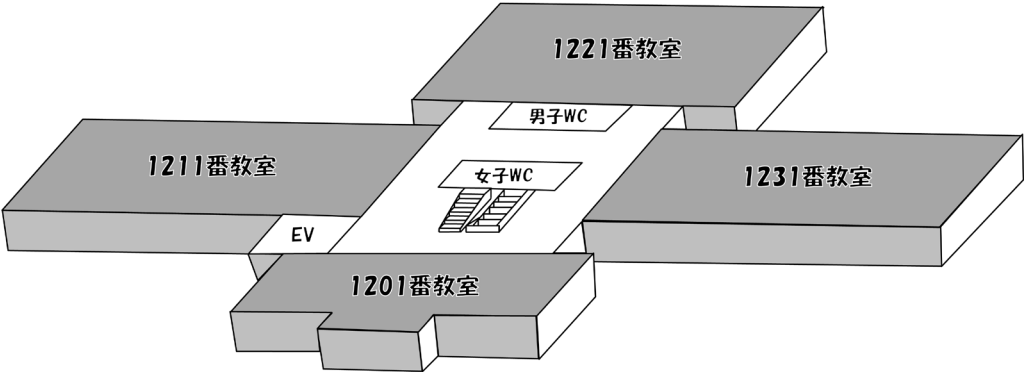
4号館



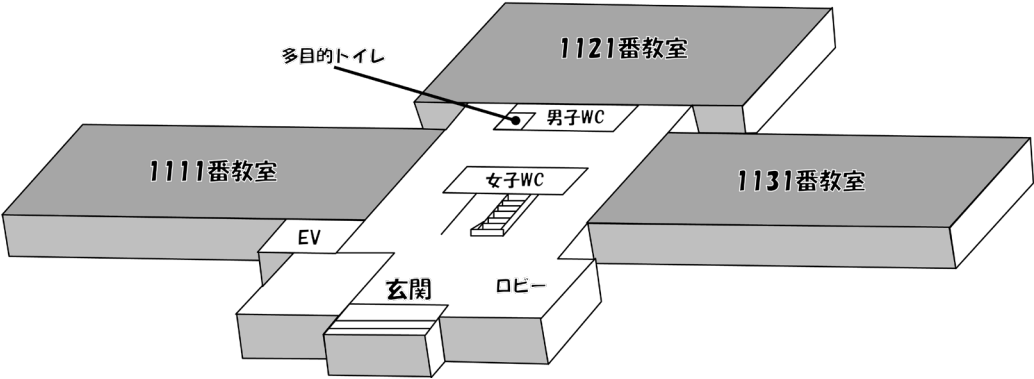
3号館  
3階



3号館  
2階



3号館  
1階



## Ⅱ 共通教育授業科目・ガイドライン・副専攻分野一覧

### 1. 共通教育授業科目・ガイドライン一覧

科目	授業科目名	単位	ガイドライン
大学基礎	スタートアップセミナー	2	グループワークを通じた大学での学び入門
大学基礎	キャリア教育入門	2	キャリア形成の基礎とその理解
大学基礎	英語Ⅰ大学基礎	1	大学レベルの英語読解力・文法力の養成
大学基礎	英語Ⅰコミュニケーション	1	英語コミュニケーション能力の養成
大学基礎	データサイエンスⅠ	2	情報倫理とデータリテラシ
大学基礎	データサイエンスⅡ	2	データサイエンスとAI
大学基礎	スポーツ健康科学A	1	スポーツ活動を実践し、心身の健康に対する理解を深める
教養基礎	英語ⅠTOEIC	1	TOEICによる読解力・聴解力の養成
教養基礎	英語Ⅰ初級TOEIC	1	TOEICによる基礎的な読解力・聴解力の養成
教養基礎	英語Ⅱ発展Aa	1	英語プレゼンテーションの基礎
教養基礎	英語Ⅱ発展Ab	1	英語プレゼンテーションの基礎
教養基礎	英語Ⅱ発展B	1	リーディング&ディスカッション
教養基礎	英語Ⅱ発展C	1	英語文章力の養成
教養基礎	英語Ⅱ発展D	1	ビジネス英語力の養成
教養基礎	英語Ⅱ発展E	1	TOEICによる高度な読解力・聴解力の養成
教養基礎	スポーツ健康科学B	1	今後のスポーツ活動を実践し、心身の健康に対する理解を深める
教養基礎	スポーツ健康科学概論	2	スポーツ文化、身体運動、健康生活に関する理解を深める
教養基礎	PBLアカデミック・ライティング	2	読解力・文章力の育成
教養基礎	哲学A	2	哲学入門（日本における哲学的思惟を考察する）
教養基礎	哲学F	2	ヨーロッパ近代哲学の基礎知識
教養基礎	哲学G	2	思考実験と哲学
教養基礎	哲学H	2	心の哲学
教養基礎	哲学I	2	科学史・科学哲学・科学技術社会論
教養基礎	倫理学A	2	日本古代・中世の倫理思想
教養基礎	倫理学B	2	日本近世・近代の倫理思想
教養基礎	倫理学F	2	倫理学の応用問題
教養基礎	倫理学G	2	倫理学の基礎知識
教養基礎	倫理学H	2	東洋の倫理思想
教養基礎	倫理学I	2	東洋倫理思想史
教養基礎	宗教学A	2	東洋の宗教
教養基礎	宗教学B	2	宗教学の基礎知識

科目	授業科目名	単位	ガイドライン
教養基礎	宗教学C	2	宗教学の応用問題
教養基礎	宗教学D	2	世界の諸宗教の比較検討
教養基礎	日本考古学A	2	日本考古学の諸問題
教養基礎	日本考古学B	2	遺跡と博物館を考える
教養基礎	日本史A	2	日本古代史
教養基礎	日本史B	2	日本中世史
教養基礎	日本史C	2	日本近世史
教養基礎	日本史D	2	日本史特論
教養基礎	日本史資料学	2	考古学と史料
教養基礎	日本文化論A	2	くずし字の読解
教養基礎	日本文化論B	2	日本の海女文化
教養基礎	西洋史A	2	西洋古代・中世史
教養基礎	西洋史B	2	西洋近世・近代史
教養基礎	西洋史C	2	西洋現代史、理論歴史学
教養基礎	西洋文化史	2	西洋近代美術史の基本的知識や分析方法を知る
教養基礎	東洋史A	2	人物に焦点をあてた東洋史
教養基礎	東洋史B	2	東洋史概説
教養基礎	東洋文化史	2	東洋の美術を中心とした文化史
教養基礎	演劇入門	2	古今東西の演劇の様式とその特徴
教養基礎	日本文学A	2	日本の上代中古の文学
教養基礎	日本文学B	2	日本の中世近世の文学
教養基礎	日本文学C	2	日本の近現代の文学
教養基礎	日本語学A	2	日本語についての基礎的な知識
教養基礎	日本語学B	2	日本語についての応用的な知識
教養基礎	比較政治文化	2	政治現象における文化の影響
教養基礎	比較文化論	2	比較文化論
教養基礎	こころのサポート	2	心理的問題と援助に関する基礎知識の習得
教養基礎	心理学A	2	発達と対人関係
教養基礎	心理学F	2	認知と学習
教養基礎	日本国憲法	2	日本国憲法の基礎
教養基礎	法学A	2	法学の基礎
教養基礎	法学B	2	国家と法
教養基礎	法学C	2	市民社会と法
教養基礎	法学F	2	国際社会と法

科目	授業科目名	単位	ガイドライン
教養基礎	法学G	2	現代社会と法
教養基礎	社会学A	2	社会学の基礎
教養基礎	社会学B	2	社会学の諸問題
教養基礎	文化人類学A	2	文化人類学の基礎
教養基礎	文化人類学B	2	文化人類学の諸問題
教養基礎	政治学A	2	現代政治、戦後日本政治史
教養基礎	政治学B	2	地方政治論、日本政治文化論、日本政治社会論
教養基礎	政治学F	2	現代社会論、政治理論、政治思想
教養基礎	政治学G	2	国際関係論、国際政治学、比較政治
教養基礎	PBL政治学1	2	PBL型授業で学ぶ政治学
教養基礎	PBL政治学2	2	PBL型授業で学ぶ政治学
教養基礎	経済学A	2	経済理論入門（数学を用いる）
教養基礎	経済学B	2	経済理論入門（制度や政治を踏まえた分析）
教養基礎	経済学F	2	産業・企業経営、国際経済（数学を用いる）
教養基礎	経済学G	2	産業・企業経営、国際経済（制度や政治を踏まえた分析）
教養基礎	人文地理学A	2	人文地理学の入門
教養基礎	人文地理学B	2	人文地理学の基礎
教養基礎	人文地理学C	2	人文地理学の応用
教養基礎	文化と空間A	2	国際社会の地理
教養基礎	文化と空間B	2	現代社会の空間的考察
教養基礎	文化と空間C	2	文化空間論の応用
教養基礎	言語学A	2	日本語を対象とした言語学
教養基礎	言語学F	2	日本語以外の言語を対象とした言語学
教養基礎	日本学	2	日本の文化・文明
教養基礎	三重学1	2	三重を対象とした諸分野に関する考察
教養基礎	三重学2	2	三重を対象とした諸分野に関する考察
教養基礎	地域学	2	日本以外の地域課題
教養基礎	情報科学A	2	コンピュータと数学
教養基礎	情報科学B	2	数値計算
教養基礎	情報科学C	2	コンピュータと言語
教養基礎	情報科学D	2	コンピュータのさまざまな応用
教養基礎	データサイエンスⅢ	2	データ解析と統計の基礎
教養基礎	数理科学A	2	数の性質とその周辺
教養基礎	数理科学B	2	図形の性質とその周辺

科目	授業科目名	単位	ガイドライン
教養基礎	数理科学C	2	関数の性質とその周辺
教養基礎	数理科学D	2	大学からの数学
教養基礎	数理科学E	2	組み合わせ論・確率論とその周辺
教養基礎	数理科学F	2	数理論理学・数学史・数学教育とその周辺
教養基礎	数理科学G	2	問題を通じた数学の学び
教養基礎	数理科学H	2	統計学の基礎
教養基礎	数理科学I	2	統計学の応用
教養基礎	PBL数理科学	2	PBL型授業で学ぶ数理科学
教養基礎	物理学1	2	物理学の理論と応用
教養基礎	物理学2	2	物理学の理論と応用
教養基礎	化学A	2	化学と現代社会
教養基礎	化学B	2	バイオテクノロジーの基礎と応用
教養基礎	生物学1	2	生物学の理論と応用
教養基礎	生物学2	2	生物学の理論と応用
教養基礎	生物学3	2	生物学の理論と応用
教養基礎	生物学4	2	生物学の理論と応用
教養基礎	入門生物学	2	未履修者向けの初歩の生物学
教養基礎	自然科学概論1	2	自然科学の諸分野に関する概論
教養基礎	自然科学概論2	2	自然科学の諸分野に関する概論
教養基礎	自然科学概論3	2	自然科学の諸分野に関する概論
教養基礎	PBL自然科学概論	2	PBL型授業で学ぶ自然科学概論
教養基礎	医学医療A1	2	生命現象、正常人体の理解などに関する考察（基礎医学）
教養基礎	医学医療A2	2	生命現象、正常人体の理解などに関する考察（基礎医学）
教養基礎	医学医療B1	2	病気の原因・診断・治療に関する考察（臨床医学）
教養基礎	医学医療B2	2	病気の原因・診断・治療に関する考察（臨床医学）
教養基礎	医学医療C1	2	身近な保健・健康に関する考察（社会医学）
教養基礎	医学医療C2	2	身近な保健・健康に関する考察（社会医学）
教養基礎	医学医療D	2	身近な保健・健康に関する考察（看護学）
教養基礎	医学医療E	2	国際保健・医療に関する考察（社会医学）
教養基礎	医学医療入門	2	哲学・倫理学に関する考察（社会医学）
教養基礎	国際保健と地域医療	2	国際保健・医療に関する考察（社会医学）
教養基礎	PBL医学・看護学	2	PBL型授業で学ぶ医学・看護学
教養基礎	環境学A	2	環境と人間・動植物への影響
教養基礎	環境学F	2	環境と人間・動植物への影響の科学的側面

科目	授業科目名	単位	ガイドライン
教養基礎	環境地理学A	2	環境地理学の入門
教養基礎	環境地理学B	2	環境地理学の基礎
教養基礎	環境地理学C	2	環境地理学の応用
教養基礎	環境科学1	2	人間をとりまく諸環境の特性
教養基礎	環境科学2	2	人間をとりまく諸環境の特性
教養基礎	科学的地域環境概論I	1	環境課題の現状と理解
教養基礎	科学的地域環境概論II	1	環境課題解決に向けた対策と考察
教養基礎	生物資源学A	2	生物資源とそれを育む環境の自然的側面
教養基礎	生物資源学B	2	生物資源とそれを育む環境の文化的側面
教養基礎	地域防災論	2	地域の立場からの防災・減災
教養基礎	防災論	2	自然災害とその防災
教養基礎	音楽文化論	2	古代から現代までの人間と音楽の関わり
教養基礎	日本理解特殊講義1	2	日本地域を対象とした諸分野からのテーマ
教養基礎	日本理解特殊講義2	2	日本地域を対象とした諸分野からのテーマ
教養基礎	日本理解特殊講義3	2	日本地域を対象とした諸分野からのテーマ
教養基礎	日本理解特殊講義4	2	日本地域を対象とした諸分野からのテーマ
教養基礎	日本理解特殊講義5	2	日本地域を対象とした諸分野からのテーマ
教養基礎	現代社会理解特殊講義1	2	現代社会を対象とした諸分野からのテーマ
教養基礎	現代社会理解特殊講義2	2	現代社会を対象とした諸分野からのテーマ
教養基礎	現代社会理解特殊講義3	2	現代社会を対象とした諸分野からのテーマ
教養基礎	現代社会理解特殊講義4	2	現代社会を対象とした諸分野からのテーマ
教養基礎	現代社会理解実践1	2	実践を通して、現代社会を対象とした諸分野からのテーマ
教養基礎	現代社会理解実践2	2	実践を通して、現代社会を対象とした諸分野からのテーマ
教養基礎	現代社会理解実践3	2	実践を通して、現代社会を対象とした諸分野からのテーマ
教養基礎	国際理解実践1	2	実践を通して、世界を対象とした諸分野からのテーマ
教養基礎	国際理解実践2	2	実践を通して、世界を対象とした諸分野からのテーマ
教養基礎	国際理解実践3	2	実践を通して、世界を対象とした諸分野からのテーマ
教養基礎	国際理解特殊講義1	2	世界を対象とした諸分野からのテーマ
教養基礎	国際理解特殊講義2	2	世界を対象とした諸分野からのテーマ
教養基礎	国際理解特殊講義3	2	世界を対象とした諸分野からのテーマ
教養基礎	国際理解特殊講義4	2	世界を対象とした諸分野からのテーマ
教養基礎	国際理解特殊講義5	2	世界を対象とした諸分野からのテーマ
教養基礎	アントレプレナーシップ基礎A	2	経営実務者に必要なマインドセットと知識について学ぶ
教養基礎	アントレプレナーシップ基礎B	2	IT分野の起業と経営について理解を深める

科目	授業科目名	単位	ガイドライン
教養基礎	アントレプレナーシップ基礎C	2	ソーシャルビジネスの基本と課題解決のための知識・思考力を身につける
教養基礎	アントレプレナーシップ基礎D	2	課題の抽出と起業プランの作成に関するスキルを身に着ける
教養基礎	アントレプレナーシップ基礎E	2	我が国の様々な社会課題について理解する
教養基礎	アントレプレナーシップ実践A	2	地域企業の経営実務者に必要な企業経営の基礎を学ぶ
教養基礎	アントレプレナーシップ実践B	2	経営実務者に必要となる資金調達について理解を深める
教養基礎	アントレプレナーシップ実践C	2	プロジェクトマネジメントの理論を学び、模擬的な実践を行う
教養基礎	アントレプレナーシップ実践D	2	ビジネスプランの実践
教養基礎	地域インターンシップ	2	地域の社会活動に参加し、アントレプレナーシップを実践する
教養基礎	みどりのアントレプレナーシップ論	2	地域課題を設定し深掘したことと地域住民へのヒアリングをもとに地域の課題解決法を検討する能力の修得
教養基礎	現代科学理解特殊講義 1	2	現代科学を対象とした諸分野からのテーマ
教養基礎	現代科学理解特殊講義 2	2	現代科学を対象とした諸分野からのテーマ
教養基礎	PBL現代科学理解特殊講義 1	2	PBL型授業で学ぶ現代科学を対象とした諸分野からのテーマ
教養基礎	PBL現代科学理解特殊講義 2	2	PBL型授業で学ぶ現代科学を対象とした諸分野からのテーマ
教養基礎	PBL現代科学理解特殊講義 3	2	PBL型授業で学ぶ現代科学を対象とした諸分野からのテーマ
教養基礎	インターンシップ入門	2	インターンシップ参加に必要な基礎スキルの習得
教養基礎	ピアサポート実践	2	「理想の授業」づくりの実践を通じた連携・協働
教養基礎	学習支援実践	2	学習面における他者支援能力の習得
教養基礎	学生生活支援実践	2	学生支援企画の実践を通じた連携・協働
教養基礎	ビジネスキャリア入門	2	就業力育成のための基礎知識の習得
教養基礎	社会連携型実践	2	地域社会の問題の理解と解決方法の考察
教養基礎	知財学	2	発明・創作体験と知財制度入門
教養基礎	ドイツの文化	2	ドイツ語圏の文化の特質についての考察
教養基礎	中国の文化	2	中国語圏の文化の特質についての考察
教養基礎	ドイツ語 I A a	1	対象言語の文法を中心とした基礎知識
教養基礎	ドイツ語 I A b	1	対象言語の文法を中心とした基礎知識
教養基礎	ドイツ語 I B a	1	対象言語の基礎的な文法の知識を用いた会話・作文・講読
教養基礎	ドイツ語 I B b	1	対象言語の基礎的な文法の知識を用いた会話・作文・講読
教養基礎	フランス語 I A a	1	対象言語の文法を中心とした基礎知識
教養基礎	フランス語 I A b	1	対象言語の文法を中心とした基礎知識
教養基礎	フランス語 I B a	1	対象言語の基礎的な文法の知識を用いた会話・作文・講読
教養基礎	フランス語 I B b	1	対象言語の基礎的な文法の知識を用いた会話・作文・講読
教養基礎	中国語 I A a	1	対象言語の文法を中心とした基礎知識
教養基礎	中国語 I A b	1	対象言語の文法を中心とした基礎知識

科目	授業科目名	単位	ガイドライン
教養基礎	中国語ⅠB a	1	対対象言語の基礎的な文法の知識を用いた会話・作文・講読
教養基礎	中国語ⅠB b	1	対象言語の基礎的な文法の知識を用いた会話・作文・講読
教養基礎	朝鮮・韓国語ⅠA a	1	対象言語の文法を中心とした基礎知識
教養基礎	朝鮮・韓国語ⅠA b	1	対象言語の文法を中心とした基礎知識
教養基礎	朝鮮・韓国語ⅠB a	1	対象言語の基礎的な文法の知識を用いた会話・作文・講読
教養基礎	朝鮮・韓国語ⅠB b	1	対象言語の基礎的な文法の知識を用いた会話・作文・講読
教養基礎	ロシア語ⅠA a	1	対象言語の文法を中心とした基礎知識
教養基礎	ロシア語ⅠA b	1	対象言語の文法を中心とした基礎知識
教養基礎	ロシア語ⅠB a	1	対象言語の基礎的な文法の知識を用いた会話・作文・講読
教養基礎	ロシア語ⅠB b	1	対象言語の基礎的な文法の知識を用いた会話・作文・講読
教養基礎	スペイン語ⅠA a	1	対象言語の文法を中心とした基礎知識
教養基礎	スペイン語ⅠA b	1	対象言語の文法を中心とした基礎知識
教養基礎	スペイン語ⅠB a	1	対象言語の基礎的な文法の知識を用いた会話・作文・講読
教養基礎	スペイン語ⅠB b	1	対象言語の基礎的な文法の知識を用いた会話・作文・講読
教養基礎	ポルトガル語ⅠA a	1	対象言語の文法を中心とした基礎知識
教養基礎	ポルトガル語ⅠA b	1	対象言語の文法を中心とした基礎知識
教養基礎	ポルトガル語ⅠB a	1	対象言語の基礎的な文法の知識を用いた会話・作文・講読
教養基礎	ポルトガル語ⅠB b	1	対象言語の基礎的な文法の知識を用いた会話・作文・講読
教養基礎	ドイツ語Ⅱ総合 a	1	Iでの学修内容を踏まえた、対象言語のより高度な文法中心の知識
教養基礎	ドイツ語Ⅱ総合 b	1	Iでの学修内容を踏まえた、対象言語のより高度な文法中心の知識
教養基礎	ドイツ語Ⅱ演習 a	1	Iでの学修内容を踏まえた、対象言語のより高度な会話・作文・講読
教養基礎	ドイツ語Ⅱ演習 b	1	Iでの学修内容を踏まえた、対象言語のより高度な会話・作文・講読
教養基礎	フランス語Ⅱ総合 a	1	Iでの学修内容を踏まえた、対象言語のより高度な文法中心の知識
教養基礎	フランス語Ⅱ総合 b	1	Iでの学修内容を踏まえた、対象言語のより高度な文法中心の知識
教養基礎	フランス語Ⅱ演習 a	1	Iでの学修内容を踏まえた、対象言語のより高度な会話・作文・講読
教養基礎	フランス語Ⅱ演習 b	1	Iでの学修内容を踏まえた、対象言語のより高度な会話・作文・講読
教養基礎	中国語Ⅱ総合 a	1	Iでの学修内容を踏まえた、対象言語のより高度な文法中心の知識
教養基礎	中国語Ⅱ総合 b	1	Iでの学修内容を踏まえた、対象言語のより高度な文法中心の知識
教養基礎	中国語Ⅱ演習 a	1	Iでの学修内容を踏まえた、対象言語のより高度な会話・作文・講読
教養基礎	中国語Ⅱ演習 b	1	Iでの学修内容を踏まえた、対象言語のより高度な会話・作文・講読
専攻基礎	情報科学基礎	2	情報リテラシ、情報倫理、コンピュータリテラシ
専攻基礎	電子計算機プログラミング及び演習	2.5	計算機利用の基礎、プログラム言語、数値計算、プログラミング演習
専攻基礎	計算機基礎Ⅰ及び演習	1.5	情報リテラシ、情報倫理、コンピュータの活用方法と演習
専攻基礎	計算機基礎Ⅱ及び演習	1.5	ハードウェア面からのコンピュータの仕組みの理解と演習

科目	授業科目名	単位	ガイドライン
専攻基礎	計算機基礎	2	情報リテラシ、情報倫理、コンピュータリテラシ、数式処理ソフトの活用
専攻基礎	建築情報処理基礎	2	情報処理、作品分析、模型制作、CAD、プレゼンテーション
専攻基礎	情報科学基礎及び初級プログラミング演習	3	計算機リテラシ、C言語プログラミング、UNIXの使い方の演習
専攻基礎	基礎線形代数学Ⅰ	2	線形代数学の基礎
専攻基礎	基礎線形代数学Ⅱ	2	線形代数学の基礎(発展)
専攻基礎	基礎微分積分学Ⅰ	2	微分積分学の基礎
専攻基礎	基礎微分積分学Ⅱ	2	微分積分学の基礎(発展)
専攻基礎	数学基礎	2	数学(微分、積分、偏微分、重積分など)の基礎
専攻基礎	基礎数学演習Ⅰ	1	基礎線形代数学Ⅰ、基礎微分積分学Ⅰレベルの演習
専攻基礎	基礎数学演習Ⅱ	1	基礎線形代数学Ⅱ、基礎微分積分学Ⅱレベルの演習
専攻基礎	基礎数理統計学	2	数理統計学の基礎
専攻基礎	基礎物理学Ⅰ	2	力学(質点、剛体の運動)
専攻基礎	基礎物理学Ⅱ	2	電磁気学
専攻基礎	基礎物理学ⅢA	2	熱力学、統計力学
専攻基礎	基礎物理学ⅢB	2	統計熱力学(化学反応などを含む)
専攻基礎	物理学基礎Ⅰ	2	力学の基礎
専攻基礎	物理学基礎Ⅱ	2	熱力学の基礎
専攻基礎	物理学実験	1	物理現象の実験・実習、物理量の計測方法の習得
専攻基礎	化学基礎Ⅰ	2	原子の構造、分子の構造
専攻基礎	化学基礎Ⅱ	2	生物化学
専攻基礎	化学Ⅰ	2	基礎化学理論、有機化学
専攻基礎	化学実験	1	化学基礎実験、(金属分析、中和滴定、有機合成)
専攻基礎	基礎生物学A	2	生命の起源から生物多様性まで、幅広く学ぶ初歩的生物学
専攻基礎	生物学基礎Ⅰ	2	生態学の基礎
専攻基礎	生物学基礎Ⅱ	2	生態学の基礎。生物学基礎Ⅰの補完的講義
専攻基礎	生物学実験	1	生物の生理、生態、発生に関する基礎的実験
専攻基礎	分子生命体科学A	2	主に分子レベルの生物学
専攻基礎	分子生命体科学B	2	主に細胞レベルの生物学
専攻基礎	基礎地学A	2	地球や宇宙に関する基礎(構造・形態・運動現象)
専攻基礎	地学基礎	2	地球科学、天文学、宇宙科学、大気、海洋、地球の歴史
専攻基礎	化学・物理実験	1	化学および物理学に関わる基礎実験
専攻基礎	ドイツ語Ⅰ基礎a	1	対象言語の文法を中心とした基礎知識
専攻基礎	ドイツ語Ⅰ基礎b	1	対象言語の文法を中心とした基礎知識
専攻基礎	ドイツ語Ⅰ演習a	1	対象言語の基礎的な文法の知識を用いた会話・作文・講読

科目	授業科目名	単位	ガイドライン
専攻基礎	ドイツ語 I 演習 b	1	対象言語の基礎的な文法の知識を用いた会話・作文・講読
専攻基礎	フランス語 I 基礎 a	1	対象言語の文法を中心とした基礎知識
専攻基礎	フランス語 I 基礎 b	1	対象言語の文法を中心とした基礎知識
専攻基礎	フランス語 I 演習 a	1	対象言語の基礎的な文法の知識を用いた会話・作文・講読
専攻基礎	フランス語 I 演習 b	1	対象言語の基礎的な文法の知識を用いた会話・作文・講読
専攻基礎	中国語 I 基礎 a	1	対象言語の文法を中心とした基礎知識
専攻基礎	中国語 I 基礎 b	1	対象言語の文法を中心とした基礎知識
専攻基礎	中国語 I 演習 a	1	対象言語の基礎的な文法の知識を用いた会話・作文・講読
専攻基礎	中国語 I 演習 b	1	対象言語の基礎的な文法の知識を用いた会話・作文・講読

## 2. 副専攻分野一覧

授業科目名	副専攻分野						単位
	歴史 ・ 文化	環境 ・ 科学	健康 ・ 医療 ・ 福祉	教育 ・ 公共	社会 ・ 経済	国際 ・ 外国語	
英語 I TOEIC						●	1
英語 I 初級 TOEIC						●	1
英語 II 発展 A a						●	1
英語 II 発展 A b						●	1
英語 II 発展 B						●	1
英語 II 発展 C						●	1
英語 II 発展 D						●	1
英語 II 発展 E						●	1
スポーツ健康科学 B			●				1
スポーツ健康科学概論		●	●	●			2
PBL アカデミック・ライティング		●	●		●		2
哲学 A	●						2
哲学 F	●						2
哲学 G	●						2
哲学 H	●						2
哲学 I	●	●					2
倫理学 A	●						2
倫理学 B	●						2
倫理学 F	●						2
倫理学 G	●						2
倫理学 H	●						2
倫理学 I	●						2
宗教学 A	●					●	2
宗教学 B	●						2
宗教学 C	●						2
宗教学 D	●						2
日本考古学 A	●						2
日本考古学 B	●						2
日本史 A	●						2
日本史 B	●						2
日本史 C	●						2
日本史 D	●						2

授業科目名	副専攻分野						単位
	歴史 ・ 文化	環境 ・ 科学	健康 ・ 医療 ・ 福祉	教育 ・ 公共	社会 ・ 経済	国際 ・ 外国語	
日本史資料学	●						2
日本文化論A	●						2
日本文化論B	●						2
西洋史A	●						2
西洋史B	●						2
西洋史C	●				●		2
西洋文化史	●						2
東洋史A	●						2
東洋史B	●						2
東洋文化史	●						2
演劇入門	●						2
日本文学A	●						2
日本文学B	●						2
日本文学C	●						2
日本語学A	●						2
日本語学B	●						2
比較政治文化					●		2
比較文化論	●						2
こころのサポート			●	●			2
心理学A			●	●	●		2
心理学F			●	●	●		2
日本国憲法					●		2
法学A				●			2
法学B					●		2
法学C				●			2
法学F				●		●	2
法学G				●			2
社会学A					●		2
社会学B					●		2
文化人類学A	●						2
文化人類学B	●						2
政治学A					●		2

授業科目名	副専攻分野						単位
	歴史 ・ 文化	環境 ・ 科学	健康 ・ 医療 ・ 福祉	教育 ・ 公共	社会 ・ 経済	国際 ・ 外国語	
政治学B				●	●		2
政治学F				●	●		2
政治学G				●	●	●	2
P B L 政治学 1					●	●	2
P B L 政治学 2				●	●		2
経済学A					●	●	2
経済学B			●	●	●		2
経済学F		●			●		2
経済学G		●		●	●		2
人文地理学A	●			●	●		2
人文地理学B	●			●	●		2
人文地理学C	●			●	●		2
文化と空間A				●	●		2
文化と空間B	●			●	●		2
文化と空間C				●	●		2
言語学A	●						2
言語学F	●					●	2
日本学	●						2
三重学 1	●			●	●		2
三重学 2		●	●		●		2
地域学				●		●	2
情報科学A		●		●	●		2
情報科学B		●		●	●		2
情報科学C		●		●	●		2
情報科学D		●		●	●		2
データサイエンスⅢ		●					2
P B L 数理科学	●	●					2
数理科学A		●		●			2
数理科学B		●		●			2
数理科学C		●		●			2
数理科学D		●		●			2
数理科学E		●		●			2

授業科目名	副専攻分野						単位
	歴史 ・ 文化	環境 ・ 科学	健康 ・ 医療 ・ 福祉	教育 ・ 公共	社会 ・ 経済	国際 ・ 外国語	
数理科学 F		●		●			2
数理科学 G		●		●			2
数理科学 H		●		●	●		2
数理科学 I		●		●	●		2
物理学 1	●	●		●			2
物理学 2		●		●	●		2
化学 A		●	●	●			2
化学 B		●	●				2
生物学 1	●	●		●			2
生物学 2		●	●	●			2
生物学 3		●		●			2
生物学 4		●				●	2
入門生物学			●				2
自然科学概論 1	●	●					2
自然科学概論 2		●	●	●			2
自然科学概論 3		●		●	●		2
P B L 自然科学概論	●	●			●		2
医学医療 A 1			●				2
医学医療 A 2		●	●	●			2
医学医療 B 1			●				2
医学医療 B 2		●	●	●			2
医学医療 C 1		●	●				2
医学医療 C 2			●	●	●		2
医学医療 D			●	●			2
医学医療 E			●	●		●	2
医学医療入門			●	●			2
国際保健と地域医療			●			●	2
P B L 医学・看護学			●				2
環境学 A		●		●	●		2
環境学 F		●	●	●			2
環境地理学 A		●		●	●		2
環境地理学 B		●		●	●		2

授 業 科 目 名	副 専 攻 分 野						単 位
	歴 史 ・ 文 化	環 境 ・ 科 学	健 康 ・ 医 療 ・ 福 祉	教 育 ・ 公 共	社 会 ・ 経 済	国 際 ・ 外 国 語	
環境地理学C		●		●	●		2
環境科学1	●	●		●			2
環境科学2		●	●		●		2
科学の地域環境概論Ⅰ		●		●	●		1
科学の地域環境概論Ⅱ		●		●	●		1
生物資源学A		●		●	●		2
生物資源学B		●	●				2
地域防災論		●		●	●		2
防災論		●					2
音楽文化論	●						2
日本理解特殊講義1	●	●		●			2
日本理解特殊講義2	●			●		●	2
日本理解特殊講義3			●	●	●		2
日本理解特殊講義4				●	●		2
日本理解特殊講義5					●	●	2
現代社会理解特殊講義1		●		●	●		2
現代社会理解特殊講義2				●	●	●	2
現代社会理解特殊講義3					●		2
現代社会理解特殊講義4	●				●	●	2
現代社会理解実践1		●			●		2
現代社会理解実践2			●	●			2
現代社会理解実践3				●			2
国際理解実践1	●				●	●	2
国際理解実践2				●		●	2
国際理解実践3						●	2
国際理解特殊講義1	●			●			2
国際理解特殊講義2	●			●		●	2
国際理解特殊講義3	●					●	2
国際理解特殊講義4				●	●	●	2
国際理解特殊講義5				●		●	2
アントレプレナーシップ基礎A	●			●	●		2
アントレプレナーシップ基礎B		●	●		●		2

授業科目名	副専攻分野						単位
	歴史 ・ 文化	環境 ・ 科学	健康 ・ 医療 ・ 福祉	教育 ・ 公共	社会 ・ 経済	国際 ・ 外国語	
アントレプレナーシップ基礎C				●	●	●	2
アントレプレナーシップ基礎D		●		●	●		2
アントレプレナーシップ基礎E	●			●	●		2
アントレプレナーシップ実践A				●	●		2
アントレプレナーシップ実践B		●	●		●		2
アントレプレナーシップ実践C		●		●	●		2
アントレプレナーシップ実践D		●		●	●		2
地域インターンシップ				●	●		2
みどりのアントレプレナーシップ論	●	●			●		2
現代科学理解特殊講義 1	●	●			●		2
現代科学理解特殊講義 2		●					2
P B L 現代科学理解特殊講義 1	●	●			●		2
P B L 現代科学理解特殊講義 2		●					2
P B L 現代科学理解特殊講義 3		●	●	●			2
インターンシップ入門				●	●		2
ピアサポート実践				●	●		2
学習支援実践				●	●		2
学生生活支援実践				●	●		2
ビジネスキャリア入門				●	●		2
社会連携型実践				●	●		2
知財学				●	●		2
ドイツの文化						●	2
中国の文化						●	2
ドイツ語 I A a						●	1
ドイツ語 I A b						●	1
ドイツ語 I B a						●	1
ドイツ語 I B b						●	1
フランス語 I A a						●	1
フランス語 I A b						●	1
フランス語 I B a						●	1
フランス語 I B b						●	1
中国語 I A a						●	1

授業科目名	副専攻分野						単位
	歴史 ・ 文化	環境 ・ 科学	健康 ・ 医療 ・ 福祉	教育 ・ 公共	社会 ・ 経済	国際 ・ 外国語	
中国語ⅠA b						●	1
中国語ⅠB a						●	1
中国語ⅠB b						●	1
朝鮮・韓国語ⅠA a						●	1
朝鮮・韓国語ⅠA b						●	1
朝鮮・韓国語ⅠB a						●	1
朝鮮・韓国語ⅠB b						●	1
ロシア語ⅠA a						●	1
ロシア語ⅠA b						●	1
ロシア語ⅠB a						●	1
ロシア語ⅠB b						●	1
スペイン語ⅠA a						●	1
スペイン語ⅠA b						●	1
スペイン語ⅠB a						●	1
スペイン語ⅠB b						●	1
ポルトガル語ⅠA a						●	1
ポルトガル語ⅠA b						●	1
ポルトガル語ⅠB a						●	1
ポルトガル語ⅠB b						●	1
ドイツ語Ⅱ総合 a						●	1
ドイツ語Ⅱ総合 b						●	1
ドイツ語Ⅱ演習 a						●	1
ドイツ語Ⅱ演習 b						●	1
フランス語Ⅱ総合 a						●	1
フランス語Ⅱ総合 b						●	1
フランス語Ⅱ演習 a						●	1
フランス語Ⅱ演習 b						●	1
中国語Ⅱ総合 a						●	1
中国語Ⅱ総合 b						●	1
中国語Ⅱ演習 a						●	1
中国語Ⅱ演習 b						●	1

### Ⅲ 学部・学科等の履修単位表（2026（令和8）年度入学者用）

#### 1. 人文学部

##### (1) 文化学科

科目	授業科目名（単位数）または 分野名	単位数小計	単位数合計
大学基礎科目	スタートアップセミナー（2）	13	
	キャリア教育入門（2）		
	英語 I 大学基礎（2） 英語 I コミュニケーション（2）		
	データサイエンス I（2） データサイエンス II（2）		
	スポーツ健康科学 A（1）		
教養基礎科目（副専攻科目） 注1	歴史・文化分野	13 スポーツ健康科学 B（1） および科学的・地域環境概論 I（1）を含めること	44
	環境・科学分野		
	健康・医療・福祉分野		
	教育・公共分野		
	社会・経済分野		
国際・外国語分野			
専攻基礎科目	未習外国語（8）注2	18	
	英語 I TOEIC（2）[教養基礎科目から選択]		
	選択科目（8）[教養基礎科目から任意の科目を選択]		

注1 教養基礎科目として開講されている授業について、同一分野の授業を10単位以上修得し申請することで、当該分野が副専攻として認められる。ただし、副専攻としての履修及び申請は任意である。

副専攻について、詳細は共通教育履修案内「第2部 I 6. 副専攻の履修・申請について」を熟読すること。

専攻基礎科目として修得した教養基礎科目の単位は、副専攻の単位に含めることはできない。

注2 未習外国語の履修について、詳細は共通教育履修案内「第2部 I 3. (6) (ii) 未習外国語（英語以外の外国語）」を熟読すること。

(2) 法律経済学科

科目	授業科目名 (単位数) または 分野名	単位数小計	単位数合計
大学基礎科目	スタートアップセミナー (2)	13	
	キャリア教育入門 (2)		
	英語 I 大学基礎 (2) 英語 I コミュニケーション (2)		
	データサイエンス I (2) データサイエンス II (2)		
	スポーツ健康科学 A (1)		
教養基礎科目 (副専攻科目) 注1	歴史・文化分野	13 科学的地域環境概論 I (1) を含めること	36
	環境・科学分野		
	健康・医療・福祉分野		
	教育・公共分野		
	社会・経済分野		
	国際・外国語分野		
専攻基礎科目	未習外国語 (4) 注2	10	
	英語 I TOEIC (2) [教養基礎科目から選択]		
	経済学 A～G (2) [教養基礎科目から選択]		
	法学 A～G (2) 政治学 A～G (2) } (2) [教養基礎科目から選択]		

- 注1 教養基礎科目として開講されている授業について、同一分野の授業を10単位以上修得し申請することで、当該分野が副専攻として認められる。ただし、副専攻としての履修及び申請は任意である。  
副専攻について、詳細は共通教育履修案内「第2部 I 6. 副専攻の履修・申請について」を熟読すること。  
専攻基礎科目として修得した教養基礎科目の単位は、副専攻の単位に含めることはできない。
- 注2 未習外国語の履修について、詳細は共通教育履修案内「第2部 I 3. (6) (ii) 未習外国語 (英語以外の外国語)」を熟読すること。

## 2. 教育学部

科目	授業科目名（単位数）または 分野名	単位数小計	単位数合計
大学基礎科目	スタートアップセミナー（2）	13	
	キャリア教育入門（2）		
	英語Ⅰ大学基礎（2） 英語Ⅰコミュニケーション（2）		
	データサイエンスⅠ（2） データサイエンスⅡ（2）		
	スポーツ健康科学A（1）		
教養基礎科目（副専攻科目） 注1	歴史・文化分野	13注2	26
	環境・科学分野		
	健康・医療・福祉分野		
	教育・公共分野		
	社会・経済分野		
国際・外国語分野			
専攻基礎科目	なし	0	

注1 教養基礎科目として開講されている授業について、同一分野の授業を10単位以上修得し申請することで、当該分野が副専攻として認められる。ただし、副専攻としての履修及び申請は任意である。

副専攻について、詳細は共通教育履修案内「第2部 I 6. 副専攻の履修・申請について」を熟読すること。

注2 13単位の中にスポーツ健康科学B（1）、スポーツ健康科学概論（2）、日本国憲法（2）、科学的地域環境概論Ⅰ（1）を含めること。

### 3. 医学部

#### (1) 医学科

科目	授業科目名（単位数）または 分野名	単位数小計	単位数合計
大学基礎科目	スタートアップセミナー（2）	13	
	キャリア教育入門（2）		
	英語Ⅰ大学基礎（2） 英語Ⅰコミュニケーション（2）		
	データサイエンスⅠ（2） データサイエンスⅡ（2）		
	スポーツ健康科学A（1）		
教養基礎科目（副専攻科目） 注1	歴史・文化分野	13注2	26
	環境・科学分野		
	健康・医療・福祉分野		
	教育・公共分野		
	社会・経済分野		
	国際・外国語分野		
専攻基礎科目	なし	0	

注1 教養基礎科目として開講されている授業について、同一分野の授業を10単位以上修得し申請することで、当該分野が副専攻として認められる。ただし、副専攻としての履修及び申請は任意である。

副専攻について、詳細は共通教育履修案内「第2部 I 6. 副専攻の履修・申請について」を熟読すること。

注2 13単位の中にスポーツ健康科学B（1）、医学医療入門（2）、国際保健と地域医療（2）、科学的地域環境概論Ⅰ（1）を含めること。

なお、物理選択者は入門生物学（2）を必ず単位修得すること。

## (2) 看護学科

科目	授業科目名（単位数）または 分野名	単位数小計	単位数合計
大学基礎科目	スタートアップセミナー（2）	13	30
	キャリア教育入門（2）		
	英語Ⅰ大学基礎（2） 英語Ⅰコミュニケーション（2）		
	データサイエンスⅠ（2） データサイエンスⅡ（2）		
	スポーツ健康科学A（1）		
教養基礎科目（副専攻科目） 注1	歴史・文化分野	13注2	30
	環境・科学分野		
	健康・医療・福祉分野		
	教育・公共分野		
	社会・経済分野		
国際・外国語分野			
専攻基礎科目	医学医療C2（2）[教養基礎科目から選択] 医学医療D（2）[教養基礎科目から選択]	4	

- 注1 教養基礎科目として開講されている授業について、同一分野の授業を10単位以上修得し申請することで、当該分野が副専攻として認められる。ただし、副専攻としての履修及び申請は任意である。
- 副専攻について、詳細は共通教育履修案内「第2部 I 6. 副専攻の履修・申請について」を熟読すること。
- 専攻基礎科目として修得した教養基礎科目の単位は、副専攻の単位に含めることはできない。
- 注2 13単位の中にスポーツ健康科学B（1）、医学医療入門（2）、科学的地域環境概論Ⅰ（1）を含めること。

## 4. 工学部

### (1) 総合工学科機械工学コース

科目	授業科目名（単位数）または 分野名	単位数小計	単位数合計
大学基礎科目	スタートアップセミナー（2）	13	
	キャリア教育入門（2）		
	英語Ⅰ大学基礎（2） 英語Ⅰコミュニケーション（2）		
	データサイエンスⅠ（2） データサイエンスⅡ（2）		
	スポーツ健康科学A（1）		
教養基礎科目（副専攻科目） 注1	歴史・文化分野	13注2	39
	環境・科学分野		
	健康・医療・福祉分野		
	教育・公共分野		
	社会・経済分野		
国際・外国語分野			
専攻基礎科目	基礎線形代数学Ⅰ（2） 基礎線形代数学Ⅱ（2） 基礎微分積分学Ⅰ（2） 基礎微分積分学Ⅱ（2） 基礎物理学Ⅰ（2） 物理学実験（1） 基礎物理学Ⅱ（2）	13	

注1 教養基礎科目として開講されている授業について、同一分野の授業を10単位以上修得し申請することで、当該分野が副専攻として認められる。ただし、副専攻としての履修及び申請は任意である。

副専攻について、詳細は共通教育履修案内「第2部 I 6. 副専攻の履修・申請について」を熟読すること。

注2 13単位の中にスポーツ健康科学B（1）、英語ⅠTOEIC（2）、科学的地域環境概論Ⅰ（1）を含めること。

(2) 総合工学科電気電子工学コース

科目	授業科目名 (単位数) または 分野名	単位数小計	単位数合計
大学基礎科目	スタートアップセミナー (2)	13	
	キャリア教育入門 (2)		
	英語 I 大学基礎 (2) 英語 I コミュニケーション (2)		
	データサイエンス I (2) データサイエンス II (2)		
	スポーツ健康科学 A (1)		
教養基礎科目 (副専攻科目) 注1	歴史・文化分野	13注2	43
	環境・科学分野		
	健康・医療・福祉分野		
	教育・公共分野		
	社会・経済分野		
	国際・外国語分野		
専攻基礎科目	基礎線形代数学 I (2)	17	
	基礎線形代数学 II (2)		
	基礎微分積分学 I (2)		
	基礎微分積分学 II (2)		
	基礎物理学 I (2)		
	基礎物理学 II (2)		
	基礎物理学 III A (2)		
	計算機基礎 (2) 化学・物理実験 (1)		

注1 教養基礎科目として開講されている授業について、同一分野の授業を10単位以上修得し申請することで、当該分野が副専攻として認められる。ただし、副専攻としての履修及び申請は任意である。

副専攻について、詳細は共通教育履修案内「第2部 I 6. 副専攻の履修・申請について」を熟読すること。

注2 13単位の中にスポーツ健康科学B (1)、英語 I TOEIC (2)、科学的地域環境概論 I (1) を含めること。

### (3) 総合工学科電子情報工学コース

科目	授業科目名（単位数）または 分野名	単位数小計	単位数合計
大学基礎科目	スタートアップセミナー（2）	13	
	キャリア教育入門（2）		
	英語Ⅰ大学基礎（2） 英語Ⅰコミュニケーション（2）		
	データサイエンスⅠ（2） データサイエンスⅡ（2）		
	スポーツ健康科学A（1）		
教養基礎科目（副専攻科目）注1	歴史・文化分野	13注2	43
	環境・科学分野		
	健康・医療・福祉分野		
	教育・公共分野		
	社会・経済分野		
国際・外国語分野			
専攻基礎科目	基礎線形代数学Ⅰ（2） 基礎線形代数学Ⅱ（2） 基礎微分積分学Ⅰ（2） 基礎微分積分学Ⅱ（2） 基礎物理学Ⅰ（2） 基礎物理学Ⅱ（2） 基礎物理学ⅢA（2） 計算機基礎（2） 化学・物理実験（1）	17	

注1 教養基礎科目として開講されている授業について、同一分野の授業を10単位以上修得し申請することで、当該分野が副専攻として認められる。ただし、副専攻としての履修及び申請は任意である。

副専攻について、詳細は共通教育履修案内「第2部 I 6. 副専攻の履修・申請について」を熟読すること。

注2 13単位の中にスポーツ健康科学B（1）、英語ⅠTOEIC（2）、科学的地域環境概論Ⅰ（1）を含めること。

(4) 総合工学科応用化学コース

科目	授業科目名 (単位数) または 分野名	単位数小計	単位数合計
大学基礎科目	スタートアップセミナー (2)	13	37
	キャリア教育入門 (2)		
	英語 I 大学基礎 (2) 英語 I コミュニケーション (2)		
	データサイエンス I (2) データサイエンス II (2)		
	スポーツ健康科学 A (1)		
教養基礎科目 (副専攻科目) 注1	歴史・文化分野	13注2	37
	環境・科学分野		
	健康・医療・福祉分野		
	教育・公共分野		
	社会・経済分野		
国際・外国語分野			
専攻基礎科目	基礎線形代数学 I (2) 基礎微分積分学 I (2) 基礎物理学 I (2) 基礎物理学 II (2) 基礎物理学 III B (2) 化学・物理実験 (1)	11	

注1 教養基礎科目として開講されている授業について、同一分野の授業を10単位以上修得し申請することで、当該分野が副専攻として認められる。ただし、副専攻としての履修及び申請は任意である。

副専攻について、詳細は共通教育履修案内「第2部 I 6. 副専攻の履修・申請について」を熟読すること。

注2 13単位の中にスポーツ健康科学B (1)、英語 I TOEIC (2)、科学的地域環境概論 I (1) を含めること。

(5) 総合工学科建築学コース

科目	授業科目名 (単位数) または 分野名	単位数小計	単位数合計
大学基礎科目	スタートアップセミナー (2)	13	
	キャリア教育入門 (2)		
	英語 I 大学基礎 (2) 英語 I コミュニケーション (2)		
	データサイエンス I (2) データサイエンス II (2)		
	スポーツ健康科学 A (1)		
教養基礎科目 (副専攻科目) 注1	歴史・文化分野	13注2	42
	環境・科学分野		
	健康・医療・福祉分野		
	教育・公共分野		
	社会・経済分野		
国際・外国語分野			
専攻基礎科目	基礎線形代数学 I (2) 基礎微分積分学 I (2) 基礎数理統計学 (2) 基礎物理学 I (2)	16注3	

注1 教養基礎科目として開講されている授業について、同一分野の授業を10単位以上修得し申請することで、当該分野が副専攻として認められる。ただし、副専攻としての履修及び申請は任意である。

副専攻について、詳細は共通教育履修案内「第2部 I 6. 副専攻の履修・申請について」を熟読すること。

専攻基礎科目として修得した教養基礎科目の単位は、副専攻の単位に含めることはできない。

注2 13単位の中にスポーツ健康科学B (1)、英語 I TOEIC (2)、科学的地域環境概論 I (1) を含めること。

注3 コースが指定する専攻基礎科目を履修すること。その他の科目は工学部向けに開講される専攻基礎科目または教養基礎科目 (専攻基礎科目として取扱う) から8単位履修すること。

(6) 総合工学科情報工学コース

科目	授業科目名 (単位数) または 分野名	単位数小計	単位数合計
大学基礎科目	スタートアップセミナー (2)	13	
	キャリア教育入門 (2)		
	英語 I 大学基礎 (2) 英語 I コミュニケーション (2)		
	データサイエンス I (2) データサイエンス II (2)		
	スポーツ健康科学 A (1)		
教養基礎科目 (副専攻科目) 注1	歴史・文化分野	13注2	39
	環境・科学分野		
	健康・医療・福祉分野		
	教育・公共分野		
	社会・経済分野		
国際・外国語分野			
専攻基礎科目	基礎線形代数学 I (2)	13	
	基礎線形代数学 II (2)		
	基礎微分積分学 I (2)		
	基礎微分積分学 II (2)		
	基礎物理学 I (2)		
	基礎物理学 II (2)		
	物理学実験 (1)		

注1 教養基礎科目として開講されている授業について、同一分野の授業を10単位以上修得し申請することで、当該分野が副専攻として認められる。ただし、副専攻としての履修及び申請は任意である。

副専攻について、詳細は共通教育履修案内「第2部 I 6. 副専攻の履修・申請について」を熟読すること。

注2 13単位の中にスポーツ健康科学B (1)、英語 I TOEIC (2)、科学的地域環境概論 I (1) を含めること。

## 5. 生物資源学部

### 生物資源学科

科目	授業科目名（単位数）または 分野名	単位数小計	単位数合計	
大学基礎科目	スタートアップセミナー（2）	13		
	キャリア教育入門（2）			
	英語Ⅰ大学基礎（2） 英語Ⅰコミュニケーション（2）			
	データサイエンスⅠ（2） データサイエンスⅡ（2）			
	スポーツ健康科学A（1）			
教養基礎科目（副専攻科目） 注1	歴史・文化分野	13注2	38 または 39	
	環境・科学分野			
	健康・医療・福祉分野			
	教育・公共分野			
	社会・経済分野			
	国際・外国語分野			
専攻基礎科目	数学基礎（2） 物理学基礎Ⅰ（2） 化学基礎Ⅰ（2） 生物学基礎Ⅰ（2） 物理学基礎Ⅱ（2） 化学基礎Ⅱ（2） 生物学基礎Ⅱ（2）	12 または 13		
	生物学実験（1）注4			
	化学実験（1）注5			
	}（4）注3			

注1 教養基礎科目として開講されている授業について、同一分野の授業を10単位以上修得し申請することで、当該分野が副専攻として認められる。ただし、副専攻としての履修及び申請は任意である。

副専攻について、詳細は共通教育履修案内「第2部 I 6. 副専攻の履修・申請について」を熟読すること。

注2 13単位の中にスポーツ健康科学B（1）、英語ⅠTOEIC（2）、科学的地域環境概論Ⅰ（1）を含めること。

注3 3科目から2科目以上選択すること。ただし、3科目修得した場合は、1科目2単位を専門教育科目の自由科目として算入する。

注4 海洋生物資源学コースの学生（生物資源総合科学コースから配属された学生も含む）は修得すること。

注5 生命化学コースの学生（生物資源総合科学コースから配属された学生も含む）は修得すること。

## IV 2026（令和8）年度開講授業一覧

### 大学基礎科目

授業科目名	種目	担当教員	学期	備考
スタートアップセミナー	-	時間割参照	前期	クラス指定あり
キャリア教育入門	-	時間割参照	前期	クラス指定あり(※)
キャリア教育入門	-	時間割参照	後期	クラス指定あり(※)
英語Ⅰ大学基礎	-	時間割参照	前期	クラス指定あり
英語Ⅰ大学基礎	-	時間割参照	後期	クラス指定あり
英語Ⅰコミュニケーション	-	時間割参照	前期	クラス指定あり
英語Ⅰコミュニケーション	-	時間割参照	後期	クラス指定あり
データサイエンスⅠ	-	時間割参照	前期	クラス指定あり
データサイエンスⅡ	-	時間割参照	後期	クラス指定あり
スポーツ健康科学A	時間割参照	時間割参照	前期	クラス指定あり

※学部・学科・コース等により指定クラスの開講学期が異なるため、注意してください。

### 教養基礎科目

授業科目名	授業テーマ・種目	担当教員	学期	備考
英語ⅠTOEIC	TOEICの集中学習	時間割参照	前期	クラス指定あり
スポーツ健康科学B	時間割参照	時間割参照	後期	クラス指定あり
スポーツ健康科学概論	スポーツ健康科学概論	時間割参照	前期	クラス指定あり
英語Ⅰ初級TOEIC	TOEIC初級者向け	松岡 幹就	前期	
英語Ⅱ発展A a	プレゼン（基礎）	フィリップス マイケル	前期	
英語Ⅱ発展A a	プレゼン（基礎）	サコラヴスキー ジェシー	前期	
英語Ⅱ発展A a	プレゼン（基礎）	サコラヴスキー ジェシー	後期	
英語Ⅱ発展A b	プレゼン(Academic)	フィリップス マイケル	後期	
英語Ⅱ発展B	英語での読解と討論	リチャーズ ジョン	前期	
英語Ⅱ発展B	英語での読解と討論	マクダニエル フロイド	前期	
英語Ⅱ発展B	英語での読解と討論	リチャーズ ジョン	後期	
英語Ⅱ発展B	英語での読解と討論	マクダニエル フロイド	後期	
英語Ⅱ発展C	英語ライティング	リチャーズ ジョン	前期	
英語Ⅱ発展C	英語ライティング	リチャーズ ジョン	後期	
英語Ⅱ発展D	ビジネス英語	マクダニエル フロイド	前期	
英語Ⅱ発展D	ビジネス英語	マクダニエル フロイド	後期	
英語Ⅱ発展E	TOEIC上級者向け	田畠 健太郎	前期	
英語Ⅱ発展E	TOEIC上級者向け	田畠 健太郎	後期	
PBLアカデミック・ライティング	科学と技術の歴史	和田 正法	前期	受講人数制限(30名)
PBLアカデミック・ライティング	新書の書評を書こう	和田 正法	前期	受講人数制限(30名)
PBLアカデミック・ライティング	人間科学	玉利 健悟	前期	
PBLアカデミック・ライティング	国際関係論	庄司 貴由	前期	受講人数制限(50名)

授業科目名	授業テーマ・種目	担当教員	学期	備考
PBLアカデミック・ライティング	書評を書いてみよう	福田 知子	前期	
PBLアカデミック・ライティング	科学と技術の歴史	和田 正法	後期	受講人数制限(30名)
PBLアカデミック・ライティング	書評を書いてみよう	福田 知子	後期	
哲学G	西洋哲学の基礎	野上 志学	前期	
哲学G	西洋哲学の基礎	野上 志学	後期	
哲学I	科学史・科学論	鈴木 秀憲	前期	
哲学I	科学史・科学論	鈴木 秀憲	後期	
倫理学A	「自然」について	遠山 敦	前期	
倫理学A	「自然」について	遠山 敦	後期	
倫理学B	「忠孝」の倫理思想史	河合 一樹	前期	
倫理学B	「忠孝」の倫理思想史	河合 一樹	後期	
倫理学F	倫理学の発展	三輪 泰之	前期	
倫理学G	エートスの学・倫理学	三輪 泰之	後期	
倫理学I	中国儒教の倫理思想	市村 俊太郎	前期	
倫理学I	中国儒教の倫理思想	市村 俊太郎	後期	
宗教学B	インド諸宗教の修行論	塩田 宝澍	前期	
宗教学B	インド諸宗教の修行論	久間 泰賢	後期	
日本考古学B	楽しむ考古学の実践	金田 明大	後期	
日本史A	日本古代史の諸問題	金田 明大	前期	
日本史B	忍者の歴史	山田 雄司	前期	
日本史B	忍者の歴史	山田 雄司	後期	
日本文化論A	忍者学入門	高尾 善希	前期	
西洋史A	西洋中近世史	飯尾 圭司	前期	
西洋史A	西洋中近世史	飯尾 圭司	後期	
西洋文化史	西洋近代美術史	原田 佳織	前期	
西洋文化史	西洋近代美術史	原田 佳織	後期	
東洋史A	中国女性史	酒井 恵子	前期	
東洋史B	万里の長城と中国史	仲山 茂	後期	
東洋文化史	東洋美術史	藤田 伸也	後期	
日本文学A	日本古典文学入門	吉井 祥	前期	
日本文学A	日本古典文学入門	吉井 祥	後期	
日本文学B	日本中世近世文学	池上 保之	前期	
日本文学B	日本中世近世文学	池上 保之	後期	
日本文学C	日本近現代文学	尾西 康充	前期	
日本文学C	日本近現代文学	尾西 康充	後期	
日本語学A	日本語学概説	川口 敦子	前期	
日本語学B	日本語史	川口 敦子	後期	
比較政治文化	政治文化を比較する	グットマン ティエリー	前期	
比較文化論	「日本人論」の批評	グットマン ティエリー	前期	
こころのサポート	こころのサポート	望木 郁代	前期	受講人数制限(55名)

授業科目名	授業テーマ・種目	担当教員	学期	備考
こころのサポート	こころのサポート	望木 郁代	後期	受講人数制限(55名)
こころのサポート	こころのサポート	風間 惇希	後期	受講人数制限(150名)
こころのサポート	こころのサポート	鈴木 英一郎	後期	
心理学A	人間発達と対人関係	安藤 直樹	前期	受講人数制限(100名)
心理学A	人間発達と対人関係	安藤 直樹	後期	受講人数制限(100名)
心理学A	発達と適応	瀬戸 美奈子	後期	受講人数制限(45名)
心理学F	心のクセを見つめ直す	南 学	前期	
心理学F	心のクセを見つめ直す	南 学	後期	
日本国憲法	事例で学ぶ日本国憲法	岩崎 恭彦	前期	
日本国憲法	平和と憲法	中山 顕	前期	受講人数制限(80名)
日本国憲法	国家は誰のものか	前田 定孝	後期	
日本国憲法	憲法と自己	内野 広大	後期	受講人数制限(50名)
日本国憲法	平和と憲法	中山 顕	後期	受講人数制限(80名)
法学A	日常生活と法	田中 亜紀子	前期	受講人数制限(80名)
法学A	裁判例で学ぶ法の世界	稲垣 朋子	後期	受講人数制限(50名)
法学C	日常生活と法	上井 長十	後期	受講人数制限(30名)
法学C	働くことと労働組合	藤本 真理 他	後期	オムニバス方式
法学G	日常生活の中の法	名島 利喜	前期	受講人数制限(80名)
社会学A	個人と社会	永谷 健	前期	受講人数制限(60名)
社会学A	個人と社会	永谷 健	後期	受講人数制限(60名)
社会学B	社会問題の論じ方	林原 玲洋	前期	受講人数制限(48名)
社会学B	ジェンダーと近代家族	江成 幸	後期	受講人数制限(60名)
文化人類学A	理論と基礎	立川 陽仁	前期	受講人数制限(60名)
文化人類学B	民族誌学	河邊 真次	前期	
文化人類学B	民族誌学	菅野 淑	前期	
文化人類学B	民族誌学	菅沼 文乃	後期	
政治学A	現代日本の政治	岡田 宏太郎	前期	
政治学A	戦後日本外交史	庄司 貴由	前期	受講人数制限(50名)
政治学A	戦後日本外交史	庄司 貴由	後期	受講人数制限(50名)
政治学B	政治学概論	庄司 貴由	後期	受講人数制限(50名)
政治学G	国際政治学	庄司 貴由	後期	受講人数制限(50名)
政治学G	民主主義を考える	麻野 雅子 他	後期	
政治学G	国際関係論	庄司 貴由	後期	受講人数制限(50名)
PBL政治学1	現代国際関係論	庄司 貴由	前期	受講人数制限(50名)
PBL政治学2	日本の政治と外交	庄司 貴由	前期	受講人数制限(50名)
経済学A	マクロ経済学	金子 満来	前期	
経済学A	ミクロ経済学入門	川地 啓介	前期	受講人数制限(50名)
経済学B	現代経済の課題	野崎 哲哉	前期	
経済学B	資本主義とは何か	西 淳	後期	
経済学F	経済分析入門	嶋 恵一	後期	

授業科目名	授業テーマ・種目	担当教員	学期	備考
経済学G	経営学の入門講義	絹村 信俊	前期	受講人数制限(50名)
経済学G	経営学の基礎理論	岩田 一哲	後期	
経済学G	日本の経済と社会	岡本 宗大	後期	
経済学G	経済学を歴史から学ぶ	西 淳	後期	
人文地理学A	都市地理学入門	安食 和宏	前期	
人文地理学A	歴史地理学	渡辺 康代	前期	
人文地理学B	文化地理学入門	中川 正	後期	受講人数制限(40名)
人文地理学C	三重県の市町の地理	安食 和宏	後期	受講人数制限(40名)
文化と空間A	空間と権力	北川 真也	前期	
文化と空間A	空間と権力	北川 真也	後期	
文化と空間B	大地の文化現象を学ぶ	森 正人	前期	受講人数制限(40名)
文化と空間C	風景と場所を考える	森 正人	前期	受講人数制限(40名)
文化と空間C	社会の法則を探る	中川 正	前期	受講人数制限(40名)
日本学	芸能にみる日本らしさ	前田 憲司	後期	
三重学 1	英語で学ぶ三重の文化	正路 真一	前期	開放科目(15名) 英語で実施する授業
三重学 1	英語で学ぶ三重の文化	正路 真一	後期	開放科目(15名) 英語で実施する授業
地域学	オセアニアの教育事情	奥田 久春	後期	
情報科学D	ライブラリの活用	鈴木 伸哉	後期	
データサイエンスⅢ	データ解析と統計	白井 伸宙	前期	
数理科学B	円の数学	肥田野 万里子	後期	
数理科学C	関数の性質とその応用	森山 貴之	後期	受講人数制限(45名)
数理科学D	大学からの数学	森山 貴之	前期	受講人数制限(45名)
数理科学F	数学基礎論入門	伊藤 美香	前期	
数理科学F	数学基礎論入門	伊藤 美香	後期	
数理科学G	問題による数学の学び	上野 祐一	後期	受講人数制限(45名)
数理科学H	やさしい統計学	岩本 隆宏	前期	
数理科学H	やさしい統計学	岩本 隆宏	後期	
物理学 1	物理学概論	佐野 和博	後期	
物理学 2	エネルギーと暮らし	岡垣 壮	前期	
化学A	化学の特徴の理解	藤井 義久 他	前期	オムニバス方式
化学A	化学に関する話題	藤井 義久 他	後期	オムニバス方式
化学B	遺伝子工学と抗体工学	湊元 幹太 他	後期	オムニバス方式
化学B	先端医療工学を学ぶ	宮本 啓一	後期	
生物学 1	多様性の生物学	福田 知子 他	前期	オムニバス方式
生物学 1	多様性の生物学	福田 知子 他	後期	オムニバス方式
生物学 2	海洋生態系の仕組み	北村 真一	前期	
生物学 2	人体の生理学 A	玉利 健悟	前期	受講人数制限(40名)
生物学 2	人体の生理学 B	玉利 健悟	前期	

授業科目名	授業テーマ・種目	担当教員	学期	備考
生物学2	人体の生理学B	玉利 健悟	後期	
生物学2	人体の生理学A	玉利 健悟	後期	
生物学3	海をめぐるサイエンス	一色 正 他	後期	オムニバス方式
入門生物学	医療系の生物学基礎	太城 康良	前期	受講人数制限(125名)
入門生物学	医療系の生物学基礎	太城 康良	前期	
自然科学概論1	科学技術の歴史	和田 正法	前期	
自然科学概論2	食品の科学・食品機能	柴田 敏行 他	前期	オムニバス方式
自然科学概論2	健康食品と機能性食品	玉利 健悟	前期	
自然科学概論2	健康食品と機能性食品	玉利 健悟	前期	受講人数制限(40名)
自然科学概論2	健康食品と機能性食品	玉利 健悟	後期	
自然科学概論2	神経生理学入門	玉利 健悟	後期	
自然科学概論3	森は生きている	沼本 晋也 他	前期	受講人数制限(20名)
PBL自然科学概論	科学の歴史	和田 正法	前期	受講人数制限(30名)
医学医療A1	人体の扉：神経と運動	太城 康良	前期	
医学医療A2	生命医学の課題	島岡 要 他	後期	オムニバス方式
医学医療B1	人体の扉：内臓と脈管	太城 康良	後期	
医学医療B2	臨床医学の最近の話題	土肥 薫 他	前期	オムニバス方式
医学医療B2	健康科学	小林 由直 他	後期	オムニバス方式
医学医療C1	いたみの科学	賀来 隆治 他	後期	オムニバス方式
医学医療C2	現代社会と健康	岡本 双美子 他	前期	オムニバス方式 受講人数制限(100名)
医学医療D	暮らしと看護	岡本 双美子 他	後期	オムニバス方式 受講人数制限(100名)
医学医療入門	医の倫理と社会的課題	中西 唯公 他	前期	オムニバス方式
国際保健と地域医療	世界の地域保健と医療	吉山 繁幸 他	後期	オムニバス方式
PBL医学・看護学	味と匂の生理学	玉利 健悟	前期	受講人数制限(40名)
PBL医学・看護学	味と匂の生理学	玉利 健悟	後期	
環境学A	暮らしの中の水	伊藤 良栄	前期	
環境学A	環境内部監査員養成	間島 順哉	前期	
環境学A	外来生物問題を考える	河村 功一 他	後期	オムニバス方式
環境学A	暮らしの中の水	伊藤 良栄	後期	
環境学F	水質・大気環境化学	立石 一希 他	前期	
環境地理学A	地図と環境	谷口 智雅	前期	
環境地理学B	身近な陸水環境	谷口 智雅	後期	
環境地理学C	地域と環境	谷口 智雅	後期	受講人数制限(40名)
環境科学1	海に親しむ	中村 亨 他	前期	受講人数制限(24名)
環境科学1	生物多様性を理解する	福田 知子	前期	
環境科学1	景観を創る	大野 研	後期	
環境科学2	地球環境問題を学ぶ	古川 浩司	前期	
環境科学2	SDGsと脱炭素社会	平山 大輔 他	前期	オムニバス方式

授業科目名	授業テーマ・種目	担当教員	学期	備考
科学的地域環境概論Ⅰ	環境マインドの育成	丸山 直樹 他	前期	オムニバス方式
科学的地域環境概論Ⅱ	環境マインドの育成	丸山 直樹 他	後期	オムニバス方式
生物資源学A	土は生きている	奥田 均 他	前期	オムニバス方式 受講人数制限(20名)
生物資源学A	海洋生物資源を知る	松田 浩一 他	前期	オムニバス方式
生物資源学A	森林の役割	野中 寛 他	前期	オムニバス方式 受講人数制限(20名)
生物資源学A	環境と動物の関わり	伴 智美 他	後期	オムニバス方式
生物資源学B	動物の生態と行動	吉原 佑	前期	
地域防災論	三重県の防災と復興	水木 千春 他	前期	オムニバス方式
防災論	自然災害と防災・減災	川口 淳 他	後期	オムニバス方式
音楽文化論	西洋音楽の歴史と社会	小沢 優子	後期	
日本理解特殊講義 1	三重の歴史と文化	富樫 健二 他	前期	オムニバス方式
日本理解特殊講義 3	医療・健康・福祉実践	富樫 健二 他	前期	オムニバス方式 受講人数制限(15名)
日本理解特殊講義 4	地域の仕事を知る	八神 寿徳 他	前期	オムニバス方式
日本理解特殊講義 5	国際共修で学ぶ多文化	正路 真一	前期	開放科目(20名)
日本理解特殊講義 5	国際共修で学ぶ多文化	正路 真一	後期	開放科目(20名)
現代社会理解特殊講義 1	MIEU ポイント	山村 直紀 他	前期	オムニバス方式
現代社会理解特殊講義 1	国際社会と日本	庄司 貴由	前期	受講人数制限(50名)
現代社会理解特殊講義 1	MIEU ポイント	山村 直紀 他	後期	オムニバス方式
現代社会理解特殊講義 1	国際社会と日本	庄司 貴由	後期	受講人数制限(50名)
現代社会理解特殊講義 3	三重の産業	富樫 健二 他	後期	オムニバス方式
現代社会理解特殊講義 4	英語で学ぶ社会と文化	サコラヴスキー ジェシー	前期	英語で実施する授業
現代社会理解特殊講義 4	英語で学ぶ社会と文化	サコラヴスキー ジェシー	後期	英語で実施する授業
現代社会理解実践 1	環境インターンシップ	立石 一希 他	前期	
現代社会理解実践 1	次世代産業実践	富樫 健二 他	後期	オムニバス方式 受講人数制限(15名)
現代社会理解実践 2	障害学生支援実践	風間 惇希 他	後期	オムニバス方式 受講人数制限(50名)
国際理解実践 1	Tri-U 国際シンポ	正路 真一	後期	受講人数制限(8名) 英語で実施する授業
国際理解実践 1	海外研修(イギリス)	サコラヴスキー ジェシー 他	後期	受講人数制限(20名) 英語で実施する授業
国際理解実践 2	留学生支援実践	風間 惇希	後期	
国際理解実践 3	海外フィールド研修	松岡 知津子 他	後期	受講人数制限(15名)
国際理解特殊講義 2	英語でエッセイ	マクダニエル フロイド	前期	開放科目(10名) 英語で実施する授業
国際理解特殊講義 2	英語でエッセイ	マクダニエル フロイド	後期	開放科目(10名) 英語で実施する授業

授業科目名	授業テーマ・種目	担当教員	学期	備考
国際理解特殊講義 3	文化を通じた自己分析	リチャーズ ジョン	前期	受講人数制限(20名) 英語で実施する授業
国際理解特殊講義 4	多文化共生とキャリア	サコラヴスキー ジェシー	前期	英語で実施する授業
国際理解特殊講義 4	多文化共生とキャリア	サコラヴスキー ジェシー	後期	英語で実施する授業
国際理解特殊講義 5	国際協力入門	奥田 久春 他	後期	オムニバス方式
アントレプレナーシップ基礎A	経営者と経営組織	浜田 吉司 他	前期	オムニバス方式
アントレプレナーシップ基礎B	情報技術の活用	八神 寿徳 他	前期	オムニバス方式
アントレプレナーシップ基礎C	ソーシャルビジネス	八神 寿徳 他	後期	オムニバス方式
アントレプレナーシップ基礎D	起業プラン創造講座	八神 寿徳 他	前期	オムニバス方式
アントレプレナーシップ基礎E	社会課題入門	浜田 吉司 他	前期	オムニバス方式
アントレプレナーシップ実践A	地域企業経営論	浜田 吉司 他	後期	オムニバス方式
アントレプレナーシップ実践B	起業と資金調達	八神 寿徳 他	後期	オムニバス方式
アントレプレナーシップ実践C	新規事業開発実践	八神 寿徳 他	前期	オムニバス方式
アントレプレナーシップ実践D	起業プラン実践講座	浜田 吉司 他	前期	オムニバス方式
地域インターンシップ	地域インターンシップ	浜田 吉司 他	前期	オムニバス方式
みどりのアントレプレナーシップ論	地域課題の深堀と解決	藤山 宗 他	後期	オムニバス方式
現代科学理解特殊講義 1	科学技術と社会	和田 正法	前期	
現代科学理解特殊講義 2	データサイエンス AI	末原 憲一郎 他	前期	
PBL 現代科学理解特殊講義 1	現代の科学と技術	和田 正法	後期	受講人数制限(30名)
PBL 現代科学理解特殊講義 2	「種の起源」を読む	福田 知子	後期	
PBL 現代科学理解特殊講義 3	現代生物学の話題	福田 知子	前期	
インターンシップ入門	インターンシップ	長岡 みか 他	後期	受講人数制限(80名)
ピアサポート実践	ピアサポート実践	鈴木 英一郎 他	前期	
ピアサポート実践	ピアサポート実践	風間 惇希 他	後期	
学習支援実践	学修支援の企画と実践	風間 惇希	後期	
学生生活支援実践	学生生活支援実践	鈴木 英一郎	後期	
ドイツの文化	ことばと文化	下村 恭太	前期	受講人数制限(41名)
ドイツの文化	ドイツの文化を知る	大林 侑平	前期	受講人数制限(41名)
ドイツの文化	ことばと文化	下村 恭太	後期	受講人数制限(41名)
ドイツの文化	ドイツの文化を知る	大林 侑平	後期	受講人数制限(41名)
中国の文化	古代～唐代前半の文学	白崎 藍	前期	
中国の文化	唐代後半～宋代の文学	白崎 藍	後期	
ドイツ語 I A a	文法中心の基礎知識	河崎 靖	前期	
ドイツ語 I A a	文法中心の基礎知識	下村 恭太	前期	
ドイツ語 I A b	文法中心の基礎知識	稲葉 瑛志	後期	
ドイツ語 I A b	文法中心の基礎知識	河崎 靖	後期	
ドイツ語 I A b	文法中心の基礎知識	高橋 美穂	後期	
ドイツ語 I B a	会話・作文・読解入門	下村 恭太	前期	
ドイツ語 I B a	会話・作文・読解入門	大林 侑平	前期	
ドイツ語 I B a	会話・作文・読解入門	パルトロメ セバステイアン	前期	

授業科目名	授業テーマ・種目	担当教員	学期	備考
ドイツ語ⅠB b	会話・作文・読解入門	バルトロメ セバスティアン	後期	
フランス語ⅠA a	フランス語の基礎知識	井出 勉	前期	
フランス語ⅠA b	フランス語の基礎知識	井出 勉	後期	
フランス語ⅠB a	フランス語会話・講読	ダメモ ジャン・フランソワ	前期	
フランス語ⅠB b	フランス語会話・講読	ダメモ ジャン・フランソワ	後期	
中国語ⅠA a	初級（文法中心）	中野 麻里子	前期	
中国語ⅠA a	初級（文法中心）	白崎 藍	前期	
中国語ⅠA a	初級（文法中心）	花尻 奈緒子	前期	
中国語ⅠA a	初級（文法中心）	陳 錦清	前期	
中国語ⅠA b	初級（文法中心）	中野 麻里子	後期	
中国語ⅠA b	初級（文法中心）	白崎 藍	後期	
中国語ⅠA b	初級（文法中心）	花尻 奈緒子	後期	
中国語ⅠA b	初級（文法中心）	陳 錦清	後期	
中国語ⅠB a	初級（会話作文）	祖 建	前期	
中国語ⅠB a	初級（会話作文）	花尻 奈緒子	前期	
中国語ⅠB a	初級（会話作文）	白石 将人	前期	
中国語ⅠB b	初級（会話作文）	祖 建	後期	
中国語ⅠB b	初級（会話作文）	花尻 奈緒子	後期	
中国語ⅠB b	初級（会話作文）	白石 将人	後期	
朝鮮・韓国語ⅠA a	文法中心	李 惠敏	前期	
朝鮮・韓国語ⅠA b	文法中心	李 惠敏	後期	
朝鮮・韓国語ⅠB a	会話中心	李 惠敏	前期	
朝鮮・韓国語ⅠB b	会話中心	李 惠敏	後期	
ロシア語ⅠA a	文法中心	佐藤 規祥	前期	
ロシア語ⅠA b	文法中心	佐藤 規祥	後期	
ロシア語ⅠB a	会話中心	佐藤 規祥	前期	
ロシア語ⅠB b	会話中心	佐藤 規祥	後期	
スペイン語ⅠA a	文法中心	河邊 真次	前期	
スペイン語ⅠA b	文法中心	河邊 真次	後期	
スペイン語ⅠB a	会話中心	河邊 真次	前期	
スペイン語ⅠB b	会話中心	河邊 真次	後期	
ポルトガル語ⅠA a	文法中心	瀧藤 千恵美	前期	
ポルトガル語ⅠA b	文法中心	瀧藤 千恵美	後期	
ポルトガル語ⅠB a	会話中心	瀧藤 千恵美	前期	
ポルトガル語ⅠB b	会話中心	瀧藤 千恵美	後期	
ドイツ語Ⅱ総合 a	より高度な言語の知識	下村 恭太	前期	
ドイツ語Ⅱ総合 b	より高度な言語の知識	下村 恭太	後期	
ドイツ語Ⅱ演習 a	より高度な読解など	バルトロメ セバスティアン	前期	
ドイツ語Ⅱ演習 b	より高度な読解など	バルトロメ セバスティアン	後期	
フランス語Ⅱ総合 a	仏語基礎知識の発展	横田 悠矢	前期	

授業科目名	授業テーマ・種目	担当教員	学期	備考
フランス語Ⅱ総合b	仏語基礎知識の発展	横田 悠矢	後期	
フランス語Ⅱ演習a	仏語会話・講読の発展	グットマン ティエリー	前期	
フランス語Ⅱ演習b	仏語会話・講読の発展	ダメモ ジャン・フランソワ	後期	
中国語Ⅱ総合a	中級(文法中心)	胡 蓉	前期	
中国語Ⅱ総合b	中級(文法中心)	胡 蓉	後期	
中国語Ⅱ演習a	中級(会話作文)	陳 錦清	前期	
中国語Ⅱ演習b	中級(会話作文)	陳 錦清	後期	

## 専攻基礎科目

授業科目名	クラス指定	担当教員	学期	備考
計算機基礎	(工)2年 E・EJ	川中 普晴	前期	
基礎線形代数学Ⅰ	(工)1年 J1~48	岩本 隆宏	前期	
基礎線形代数学Ⅰ	(工)1年 J49~	岩本 隆宏	前期	
基礎線形代数学Ⅰ	(工)1年 E36~・EJ21~	久保 明達	前期	
基礎線形代数学Ⅰ	(工)1年 E1~35・EJ1~20	久保 明達	前期	
基礎線形代数学Ⅰ	(工)1年 M	丸山 直樹	前期	
基礎線形代数学Ⅰ	(工)1年 A	堀江 太郎	後期	
基礎線形代数学Ⅰ	(工)1年 C49~	肥田野 万里子	後期	
基礎線形代数学Ⅰ	(工)1年 C1~48	大貫 洋介	後期	
基礎線形代数学Ⅱ	(工)1年 J1~48	岩本 隆宏	後期	
基礎線形代数学Ⅱ	(工)1年 J49~	岩本 隆宏	後期	
基礎線形代数学Ⅱ	(工)1年 E36~・EJ21~	久保 明達	後期	
基礎線形代数学Ⅱ	(工)1年 E1~35・EJ1~20	久保 明達	後期	
基礎線形代数学Ⅱ	(工)1年 M	丸山 直樹	後期	
基礎微積分学Ⅰ	(工)1年 A	堀江 太郎	前期	
基礎微積分学Ⅰ	(工)1年 C1~48	肥田野 万里子	前期	
基礎微積分学Ⅰ	(工)1年 C49~	大貫 洋介	前期	
基礎微積分学Ⅰ	(工)1年 J1~48	大貫 洋介	前期	
基礎微積分学Ⅰ	(工)1年 J49~	上野 祐一	前期	
基礎微積分学Ⅰ	(工)1年 M	市原 潔	前期	
基礎微積分学Ⅰ	(工)1年 E301~335 1年 EJ001~020	松井 龍之介	前期	
基礎微積分学Ⅰ	(工)1年 E336~ 1年 EJ021~	松井 龍之介	前期	
基礎微積分学Ⅰ		堀江 太郎	後期	再履修
基礎微積分学Ⅱ		堀江 太郎	前期	再履修
基礎微積分学Ⅱ	(工)1年 J1~48	大貫 洋介	後期	
基礎微積分学Ⅱ	(工)1年 J49~	上野 祐一	後期	
基礎微積分学Ⅱ	(工)1年 M	吉川 高正 他	後期	
基礎微積分学Ⅱ	(工)1年 E301~335 1年 EJ001~020	永井 滋一	後期	

授業科目名	クラス指定	担当教員	学期	備考
基礎微分積分学Ⅱ	(工)1年 E336～ 1年 EJ021～	永井 滋一	後期	
数学基礎	(生)	小川 史明	前期	
数学基礎	(生)	長岡 誠也	前期	
数学基礎	(生)	山田 二久次	前期	
数学基礎	(生)	渡邊 晋生	前期	
数学基礎	(生)	大井 淳史	前期	
数学基礎	(生)	大井 淳史	後期	再履修
基礎数理統計学	(工)2年 A	森山 貴之	前期	
基礎物理学Ⅰ	(工)1年 C	藤原 裕司	前期	
基礎物理学Ⅰ	(工)1年 E01～35 1年 EJ01～20	加藤 典彦	前期	
基礎物理学Ⅰ	(工)1年 E336～ 1年 EJ021～	前田 太佳夫	前期	
基礎物理学Ⅰ	(工)1年 A	園田 昭彦	前期	
基礎物理学Ⅰ	(工)1年 J	鳥飼 正志	前期	
基礎物理学Ⅰ	(工)1年 M	早川 聡一郎	後期	
基礎物理学Ⅱ	(工)1年 M	野呂 雄一	前期	
基礎物理学Ⅱ	(工)1年 E	元垣内 敦司	後期	
基礎物理学Ⅱ	(工)1年 EJ	木村 明洋	後期	
基礎物理学Ⅱ	(工)1年 C	村田 博司	後期	
基礎物理学Ⅱ	(工)1年 J	成田 憲一	後期	
基礎物理学ⅢA	(工)2年 E・EJ	元垣内 敦司	前期	
基礎物理学ⅢB	(工)2年 C	小塩 明 他	前期	
物理学基礎Ⅰ	(生)	田中 宣多	前期	
物理学基礎Ⅰ	(生)	岡村 実奈	前期	
物理学基礎Ⅰ	(生)	近藤 雅秋	前期	
物理学基礎Ⅰ	(生)	万田 敦昌	前期	
物理学基礎Ⅰ	(生)	呉 婷婷	後期	再履修
物理学基礎Ⅱ	(生)	大井 淳史	前期	再履修
物理学基礎Ⅱ	(生)	西井 和晃	後期	
物理学基礎Ⅱ	(生)	近藤 雅秋	後期	
物理学実験	(工)2年 M	鳥飼 正志 他	前期	
物理学実験	(工)2年 J(生)2年以上	野呂 雄一 他	前期	
化学基礎Ⅰ	(生)1年 農	福崎 智司 他	前期	
化学基礎Ⅰ	(生)1年 総・海	稲垣 穰	前期	
化学基礎Ⅰ	(生)1年 生	寺西 克倫	前期	
化学基礎Ⅰ	(生)	福崎 智司	後期	再履修
化学基礎Ⅱ	(生)	竹林 慎一郎	前期	再履修
化学基礎Ⅱ	(生)1年	柿沼 誠 他	後期	

授業科目名	クラス指定	担当教員	学期	備考
化学 I	(工) M	岡崎 隆男 他	前期	再履修
化学 I	(工) E	今西 誠之 他	前期	再履修
化学実験	(生) 2 年 生	木村 哲哉 他	前期	
化学実験	(医) 1 年 (工) 2 年 (生) 2・3 年	大井 淳史 他	後期	
基礎生物学 A	(教)	平山 大輔	前期	2025 以前入学生用
生物学基礎 I	(生) 1 年	松井 宏樹 他	前期	
生物学基礎 I	(生) 1 年	木佐貫 博光 他	前期	
生物学基礎 I	(生)	木佐貫 博光 他	後期	再履修
生物学基礎 II	(生)	石川 輝 他	前期	再履修
生物学基礎 II	(生) 1 年	石川 輝 他	後期	
生物学実験	(生) 2 年生以上 海	倉島 彰 他	前期	
基礎地学 A	(教)	伊藤 信成	前期	2025 以前入学生用
地学基礎	(生)	岡島 賢治	前期	
化学・物理実験	(工) 2 年 E・EJ・C	青木 裕介 他	前期	(クラス 1)
化学・物理実験	(工) 2 年 E・EJ・C	鈴木 勇輝 2 他	前期	(クラス 2)
ドイツ語 I 基礎 a	(人) 文	下村 恭太	前期	
ドイツ語 I 基礎 a	(人) 法(教) 英	大林 侑平	前期	
ドイツ語 I 基礎 b	(人) 文	下村 恭太	後期	
ドイツ語 I 基礎 b	(人) 法(教) 英	大林 侑平	後期	
ドイツ語 I 演習 a	(人) 文	バルトロメ セバスティアン	前期	
ドイツ語 I 演習 a	(人) 文	大林 侑平	前期	
ドイツ語 I 演習 a	(人) 法(教) 英	鈴木 久嗣	前期	
ドイツ語 I 演習 b	(人) 文	大林 侑平	後期	
ドイツ語 I 演習 b	(人) 文	バルトロメ セバスティアン	後期	
ドイツ語 I 演習 b	(人) 法(教) 英	鈴木 久嗣	後期	
フランス語 I 基礎 a	(人) (教) 英	横田 悠矢	前期	
フランス語 I 基礎 b	(人) (教) 英	横田 悠矢	後期	
フランス語 I 演習 a	(人) (教) 英	グットマン ティエリー	前期	
フランス語 I 演習 b	(人) (教) 英	ダメモ ジャン・フランソワ	後期	
中国語 I 基礎 a	(人) (教) 英	中野 麻里子	前期	
中国語 I 基礎 a	(人) (教) 英	花尻 奈緒子	前期	(初回履修登録クラス)
中国語 I 基礎 a	(人) (教) 英	胡 蓉	前期	
中国語 I 基礎 b	(人) (教) 英	中野 麻里子	後期	前期の履修クラスに登録。
中国語 I 基礎 b	(人) (教) 英	花尻 奈緒子	後期	前期の履修クラスに登録。
中国語 I 基礎 b	(人) (教) 英	胡 蓉	後期	前期の履修クラスに登録。
中国語 I 演習 a	(人) (教) 英	祖 建	前期	
中国語 I 演習 a	(人) (教) 英	陳 錦清	前期	(初回履修登録クラス)
中国語 I 演習 a	(人) (教) 英	白石 将人	前期	
中国語 I 演習 b	(人) (教) 英	祖 建	後期	前期の履修クラスに登録。
中国語 I 演習 b	(人) (教) 英	陳 錦清	後期	前期の履修クラスに登録。

授業科目名	クラス指定	担当教員	学期	備考
中国語 I 演習 b	(人) (教) 英	白石 将人	後期	前期の履修クラスに登録。

# 【付録】特色のある授業

## SIE 2026: Study in English 2026年度「英語での授業」開講科目時間割

### 前期

	1・2限	3・4限	5・6限	7・8限	9・10限
月			英語Ⅱ発展B 「リーディング& ディスカッション」 リチャーズ ジョン	英語Ⅱ発展C 「ライティング」 リチャーズ ジョン	履修時に望ましい TOEIC IP取得点数(目安)  = 500点以上  = 600点以上 ☆=人数制限のある授業科目  4日間のEnglish Immersion (前期集中講義)  ☆国際理解特殊講義3 「文化を通じた自己分析」 リチャーズ ジョン ▶毎日8:50から16:10を英語のみの環 境で挑む。 ▶受講者は20名まで ▶開講期間:8月25日~28日
火	現代社会理解特殊講義4 「英語で学ぶ社会と文化」 サコラヴスキー ジェシー	現代社会理解特殊講義4 「英語で学ぶ社会と文化」 サコラヴスキー ジェシー	英語Ⅱ発展Aa 「プレゼンテーション(基礎)」 フィリップス マイケル	英語Ⅱ発展Aa 「プレゼンテーション(基礎)」 フィリップス マイケル	
水					
木	英語Ⅱ発展Aa 「プレゼンテーション(基礎)」 サコラヴスキー ジェシー	英語Ⅱ発展Aa 「プレゼンテーション(基礎)」 サコラヴスキー ジェシー	英語Ⅱ発展B 「リーディング& ディスカッション」 マクダニエル フロイド	英語Ⅱ発展D 「ビジネスイングリッシュ」 マクダニエル フロイド	
	☆国際理解特殊講義2 「英語でエッセイ」 マクダニエル フロイド	英語Ⅱ発展B 「リーディング& ディスカッション」 マクダニエル フロイド			
金	国際理解特殊講義4 「多文化共生とキャリア」 サコラヴスキー ジェシー	国際理解特殊講義4 「多文化共生とキャリア」 サコラヴスキー ジェシー			

### 後期

	1・2限	3・4限	5・6限	7・8限	9・10限
月			英語Ⅱ発展B 「リーディング& ディスカッション」 リチャーズ ジョン	英語Ⅱ発展C 「ライティング」 リチャーズ ジョン	英国シェフィールド大学へ 3週間(前期集中講義)  ☆国際理解実践1 「海外研修(イギリス)」 サコラヴスキー ジェシー 下村 智子 ▶申請期間: 2026年4月 ▶海外研修期間: 2027年2月~3月 (詳細はSIEホームページを参照) ▶受講者は20名まで
火	現代社会理解特殊講義4 「英語で学ぶ社会と文化」 サコラヴスキー ジェシー	現代社会理解特殊講義4 「英語で学ぶ社会と文化」 サコラヴスキー ジェシー	英語Ⅱ発展Ab 「プレゼンテーション (アカデミック)」 フィリップス マイケル	英語Ⅱ発展Ab 「プレゼンテーション (アカデミック)」 フィリップス マイケル	
水					
木	英語Ⅱ発展Aa 「プレゼンテーション(基礎)」 サコラヴスキー ジェシー	英語Ⅱ発展Aa 「プレゼンテーション(基礎)」 サコラヴスキー ジェシー	英語Ⅱ発展B 「リーディング& ディスカッション」 マクダニエル フロイド	英語Ⅱ発展D 「ビジネスイングリッシュ」 マクダニエル フロイド	
	☆国際理解特殊講義2 「英語でエッセイ」 マクダニエル フロイド	英語Ⅱ発展B 「リーディング& ディスカッション」 マクダニエル フロイド			
金	国際理解特殊講義4 「多文化共生とキャリア」 サコラヴスキー ジェシー	国際理解特殊講義4 「多文化共生とキャリア」 サコラヴスキー ジェシー			

## SIE 2026: Study in English 2026年度「英語での授業」の概要

TOEIC IP で  
500 点以上

- 履修時に TOEIC で 500 点以上を取得していることが望ましい (IP テストを含む)
- 全学部の全学年が受講できる (留学生を含む)

授業科目名 「内容・テーマ」 (担当教員)	学期・時間帯	単 位 数	先生からのひとこと	備考
英語Ⅱ発展 Aa 「プレゼンテーション (基礎)」 (サコラヴスキー)	前期: 木 1-2 限、木 3-4 限 後期: 木 1-2 限、木 3-4 限	1	発表内容を効果的に伝えるために必要な技術、自信、英語力を身に着けよう。英語だけではなく、日本語でのプレゼンテーションでも通用する内容が多いので、これからの人生で役立ちます。達成感も半端ない!	
英語Ⅱ発展 Aa 「プレゼンテーション (基礎)」 (フィリップス)	前期のみ: 火 5-6 限、7-8 限	1	授業終了後にも役に立つ、公的な場所で自信を持って英語で話す方法や様々なプレゼンテーションに関する技術を身につけます。	
英語Ⅱ発展 Ab 「プレゼンテーション (アカデミック)」 (フィリップス)	後期のみ: 火 5-6 限、7-8 限	1	専門的な内容に関するプレゼンテーションのスキルや学術的・公的な場における発表の方法について学びます。この授業で身につけるスキルは、大学での学修やその後のキャリアにおいても役に立つでしょう。	英語Ⅱ発展 Aa 等で基礎を先に受講することが望ましい
英語Ⅱ発展 B 「リーディング&ディスカッション」 (マクダニエル)	前期: 木 3-4 限、木 5-6 限 後期: 木 3-4 限、木 5-6 限	1	議論を深めるために、授業中にリーディングを行うと同時に、多くの英会話の練習を行います。	
英語Ⅱ発展 B 「リーディング&ディスカッション」 (リチャーズ)	前期: 月 5-6 限 後期: 月 5-6 限	1	現代の課題に関する記事を読みます。また、小グループに分かれて活動することを通して、これらの話題について理解を深めたり、自分たちの考えを表現する能力を高めます。	
英語Ⅱ発展 C 「ライティング」 (リチャーズ)	前期: 月 7-8 限 後期: 月 7-8 限	1	ライティングの技能を高めるために、エッセイの構造を学びます。英語で記述し、読み直し、書いた文章をより良くしていくために、小グループでも活動を行います。	
英語Ⅱ発展 D 「ビジネス・イングリッシュ」 (マクダニエル)	前期: 木 7-8 限 後期: 木 7-8 限	1	実践的なビジネス英語 (雇用、管理、マーケティングなど) を学びます。実践的な英語力とビジネス界における文化的差異を理解する第一歩となるでしょう。	
現代社会理解特殊講義 4 「英語で学ぶ社会と文化」 (サコラヴスキー)	前期: 火 1-2 限、火 3-4 限 後期: 火 1-2 限、火 3-4 限	2	世界の出来事、社会問題や社会現象、異文化について英語で話す・聞く・読む・書く授業です。自分で計画を立て、英語の弱みを強みに変えます。留学や海外研修を考えている人におすすめ。	
国際理解特殊講義 3 「文化を通じた自己分析」 (リチャーズ)	前期集中講義	2	4 日間、英語のみで受講します。語学力を高めるだけでなく、国際的な事柄や異文化に対する理解を深めます。日本にいながら英語だけで過ごし、楽しみながら英語力を高める非常に貴重な機会です。	☆人数制限: 20 名

TOEIC IP で  
600 点以上

- 履修時に TOEIC で 600 点以上を取得していることが望ましい (IP テストを含む)
- 全学部の全学年が受講できる (留学生を含む)

授業科目名 「内容・テーマ」 (担当教員)	学期・時間帯	単 位 数	先生からのひとこと	備考
国際理解特殊講義 2 「英語でエッセイ」 (マクダニエル)	前期: 木 1-2 限 後期: 木 1-2 限	2	外国人留学生と共に活動しながら、英語でレポートを書き、修正し、編集します。前期はインタビューや物語について、後期は例や理由を示しながら自分の意見を根拠づける方法を学びます。	☆人数制限: 15 名
国際理解特殊講義 4 「多文化共生とキャリア」 (サコラヴスキー)	前期: 金 1-2 限、金 3-4 限 後期: 金 1-2 限、金 3-4 限	2	自分のキャリアで何を求めているか、職場で異文化とどう接するべきかなど、多くのディスカッションをします。ディスカッションを通して、英語力が伸びるだけでなく、社会と文化への理解も深まります。	

短期海外研修  
(後期集中)

- 履修時に TOEIC で 500 点以上を取得していることが望ましい (IP テストを含む)
- 全学部の全学年が受講できる

授業科目名 (担当教員)	学期・時間帯	単 位 数	先生からのひとこと	備考
国際理解実践 1 「海外研修 (イギリス)」 (サコラヴスキー & 下村)	後期集中	2	イギリスのシェフィールド大学において、諸外国の学生と共に語学研修プログラムを受講します (2027 年 2 月~3 月)。期間中は、現地の家庭にホームステイし、イギリスの生活と文化を体験します。履修希望者は 2026 年 4 月に申請が必要です (詳細は SIE ホームページを参照)。	☆人数制限: 20 名

- SIE ホームページ: <https://lms-m41.mie-u.ac.jp/course/view.php?id=641>
- 海外研修: <https://lms-m41.mie-u.ac.jp/mod/page/view.php?id=38999>

## 受講者の自主性・自立性を大切に、チームの力によって 課題の解決をめざすPBL授業方式による授業

教養基礎科目の中に、PBL方式で行う授業があります。PBLは、受講者の満足度が非常に高い授業形態です。グループの仲間と楽しくやりながら、知識や技能も身に付けてしまうという、発想を転換した授業スタイルです。

PBLとは、Problem-Based Learning、もしくはProject-Based Learningの頭文字をとったもので、課題解決型学習法と言われます。従来の系統的に知識を得る講義（座学）に対比されます。先に問題や課題があり、それらについて学生が主体的に取り組みます。授業の終盤に、レポートやプレゼンテーションなどで成果を報告します。

2023年度には、アカデミック・ライティングの授業を開設しました。レポートを書く際の基礎になる力を養成します。大学生活の早い段階で、絶対身に付けておきたい力の一つです。

単位はいずれも2単位です。下表のように、前期（一部夏季集中）と後期にわたって、多様な分野の授業を提供しています。共通科目の中で教養として提供されているものであり、専攻にかかわらず、受講することができます。履修登録に際しては、学期ごとに発行される時間割表を確認してください。

授業科目名	授業テーマ	担当教員	学期
PBLアカデミック・ライティング	科学と技術の歴史	和田 正法	前期
PBLアカデミック・ライティング	科学と技術の歴史	和田 正法	後期
PBLアカデミック・ライティング	新書の書評を書こう	和田 正法	前期
PBLアカデミック・ライティング	国際関係論	庄司 貴由	前期
PBLアカデミック・ライティング	人間科学	玉利 健悟	前期
PBLアカデミック・ライティング	書評を書いてみよう	福田 知子	前期
PBLアカデミック・ライティング	書評を書いてみよう	福田 知子	後期
PBL自然科学概論	科学の歴史	和田 正法	前期
PBL現代科学理解特殊講義1	現代の科学と技術	和田 正法	後期
PBL現代科学理解特殊講義2	「種の起源」を読む	福田 知子	後期
PBL現代科学理解特殊講義3	現代生物学の話題	福田 知子	前期
PBL政治学1	現代国際関係論	庄司 貴由	前期
PBL政治学2	日本の政治と外交	庄司 貴由	前期
PBL医学・看護学	味と匂の生理学	玉利 健悟	前期
PBL医学・看護学	味と匂の生理学	玉利 健悟	後期
PBL自然科学概論	科学の歴史	和田 正法	前期

## 環境先進大学の学生として環境マインドを育成するオンデマンド授業

### 1. 授業の概要

持続可能な社会を実現するためには、環境に関する課題を統合的な視点で考えていくことが求められています。三重大学では、環境課題に対して幅広い分野の視点から考えることのできる科学的・地域環境人材の育成に取り組んでいます。科学的・地域環境人材になるために必要な知識や考察力を養うことを目的として、「科学的・地域環境概論Ⅰ」および「科学的・地域環境概論Ⅱ」を開講しています。環境課題に対して関心のある学生は、積極的に受講してください。

#### ・「科学的・地域環境概論Ⅰ」

環境課題の現状と理解を目的とし、環境に関する諸課題への取り組みについて科学的視点をはじめ、社会的視点も含めた地域環境科学の基礎を学びます。

#### ・「科学的・地域環境概論Ⅱ」

「科学的・地域環境概論Ⅰ」で身に付けた地域環境科学の基礎をもとに、環境に関する科学的・社会的諸問題や、課題に伴う社会への影響とその解決に向けた対策に関する考察を行うことで、環境マインドを養うことを目指します。

### 2. 三重大学科学的・地域環境人材「アナリスト」認定

「科学的・地域環境概論Ⅰ」および「科学的・地域環境概論Ⅱ」の両方を受講し、それぞれ各7つの授業（初回の授業を除く）の合計14の授業全てを視聴し、かつ全ての授業の理解度確認試験に合格（正答率8割以上）した場合、「三重大学科学的・地域環境人材 アナリスト」に認定されます。単位修得条件とは異なりますので、注意下さい。

アナリスト認定条件を満たした時、自動的に受講者の学生メールアドレス宛に認定が通知されます。なお、アナリスト認定のためには「科学的・地域環境概論Ⅰ」と「科学的・地域環境概論Ⅱ」の受講順序は問いません。

[問い合わせ先]

地球環境センター 事務担当 ※[at]は@(アット)に置き換えてください。

E-mail: sle[at]gecer.mie-u.ac.jp

# レジリエントな社会の実現に向けて地域の防災力向上に寄与する学生を育成する授業

## 1. 授業の概要

近年、国内では大規模な自然災害が数多く発生していることから市民の防災意識が高まっています。特に三重県では南海トラフ地震の発生が懸念されており、風水害や土砂災害に対する対策とともに地震・津波に備えることが急務となっています。

災害に強いレジリエントな社会を実現するためには、防災・減災に関する知見を深めるとともに課題を見極め解決していく力を養っていくことが求められています。

三重大学では、地域防災力の向上を担う若き防災人材の育成に取り組むため、必要な知識や考察力を養うことを目的として、「防災論 および「地域防災論」の授業を開講しています。

防災・減災に対して関心のある学生は、積極的に受講してください。

### ・「防災論」

自然災害に関する基礎知識を習得するとともに、地域住民から行政まで様々な主体による自助・共助・公助の防災・減災対策を理解することを目的として、建物、都市の地震防災に関する知識を中心に地域防災に関連した講義を実施します。

### ・「地域防災論」

三重県や東海地方の自然的、社会的、人文的特徴をふまえ、様々な地域条件に応じた防災・減災対策のあり方を考える力を養うことを目的として、地震・津波や風水害等の自然災害について、発生メカニズム、地域や行政における対策、被災地支援等について、それぞれの分野における防災・減災に関わる専門家から講義を実施します。

## 2. 「防災士」資格の取得

「地域防災論」を履修し、かつ普通救命講習等を受講し、特定非営利活動法人日本防災士機構の定める要件を満たすと、本学と三重県が共同で設立した「三重県・三重大学 みえ防災・減災センター」の事業の一環として、「防災士」の資格取得試験の受験資格が得られます。試験に合格し日本防災士機構に登録することで「防災士」の資格を取得できます。

[防災士資格取得に関する問い合わせ先]

三重県・三重大学 みえ防災・減災センター

E-mail: bosai@crc.mie-u.ac.jp

# アントレプレナーシップ関連科目の概要

## 1. 背景と全体概要

情報通信技術の急速な進化、異常気象や災害、テロ・戦争、不安定な政治・経済など、社会の変化が激しく未来の予測が困難な現代（VUCA の時代）において、「自ら社会から課題を見つけ、その解決に向かってチャレンジし、新たな価値を生み出していくことができる人材」（アントレプレナーシップを備えた人材）が求められています。

三重大学では、全学的なアントレプレナーシップ教育を進めることを目的として、令和7年度から、学部1年生の必修授業である「キャリア教育入門」内の3回分の授業において、アントレプレナーシップ教育を導入しています。また、共通教育の選択科目において、既存の科目に加えて、新規10科目のアントレプレナーシップ関連科目およびアントレプレナー型インターンシップを順次開設しています（図1）。これにより、アントレプレナーシップの基礎から実践までを体系的に学び、経験することができるようになっています。学生の皆さんが自らの興味や修得したい知識・スキルに応じて授業を選択し履修することも可能です。アントレプレナーシップ関連科目は、起業家や実務家を招聘して行う授業、企業と連携した授業が多いため、実践的な知識

だけでなく多面的な視点も学ぶことができます。社会と接する、社会を知ることから早い段階から経験し、自己のやりたいことを探し、将来のキャリア形成に繋がっていくことに活用してください。

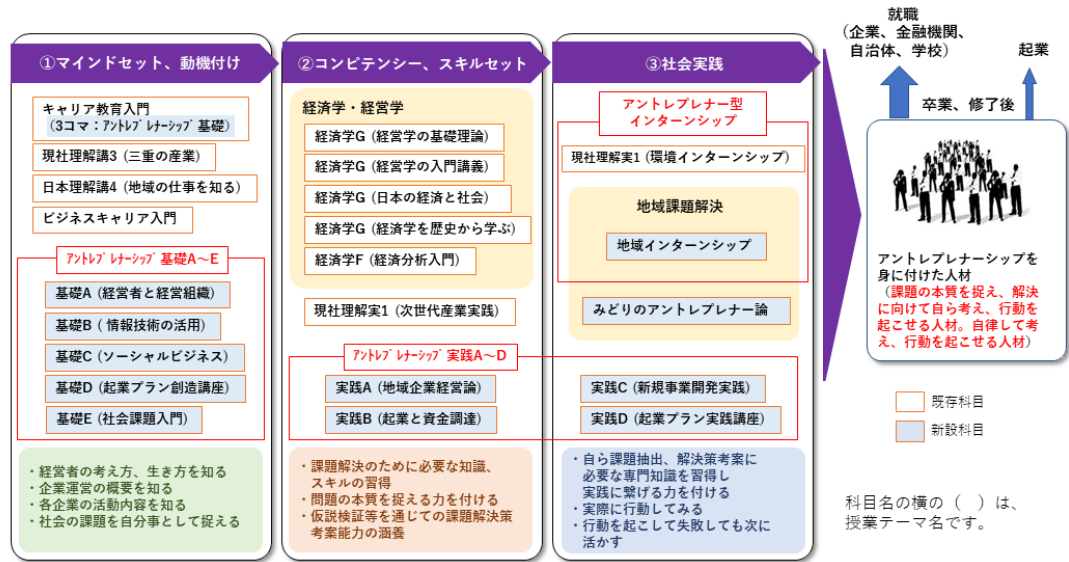


図1 アントレプレナーシップ科目群の概要

## 2. アントレプレナーシップとは

文部科学省は、アントレプレナーシップを「様々な困難や変化に対し、与えられた環境のみならず自ら枠を超えて行動を起こし、新たな価値を生み出していく精神」と定義しています。アントレプレナーシップ教育は、自ら社会課題を見つけ、課題解決に向かってチャレンジしたり、他者との協働により解決策を探求したりすることができる知識・能力・態度を身に付ける教育であり、起業家を育成すること以上に、企業や自治体、学校などへ就職する方にとって重要な教育であるとされています。下記の文部科学省の人材育成プログラム HP や東海地区の大学が連携して取り組んでいる Tongali の HP などでも、皆さんがいつでも受講できる教育プログラムが用意されています。是非、知識修得やスキルアップに活用してください。

全国アントレプレナーシップ  
人材育成プログラム HP



Tongali HP

